

令和4年度
行動計画と
その取組み結果報告書

＝ 組 織 別 ＝

令和5年9月
八戸工業高等専門学校

令和4年度 行 動 計 画

委 員 会 等	担 当 者	行 動 計 画	頁
運営委員会	企画担当 副校長	1. 新型コロナウイルス感染症への対応（継続） 2. オンライン会議の実施（継続）	5
入学者選抜委員会	教務主事	1. 学校PRの推進（継続） 2. 令和5年度入学者選抜方法の改訂	6
教務委員会	教務主事	1. 教務関係規則等の整備（継続） 2. モデルコアカリキュラムへの対応（継続） 3. 教育の質保証への対応（継続） 4. タイからの留学生への対応（継続） 5. 教務システムの更新 6. 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度への申請	9
厚生補導委員会	学生主事	1. 学生指導・支援の充実（継続） 2. 学生会活動の活性化支援 3. 課外活動運営のための体制整備 4. 学生の社会性醸成の支援	12
寮務委員会	寮務主事	1. 寮生の健康管理徹底と生活意識向上の支援（継続） 2. 寮生の自主的活動の支援（継続） 3. 施設・住環境の改善（継続） 4. 運営・管理業務の見直し（継続）	16
専攻科委員会	専攻科長	1. 新型コロナウイルス感染症に対する対応（継続） 2. 多様化する専攻科の制度整備（継続） 3. 確実な学位取得・修了へ向けた支援体制の整備（新規） 4. 入学者の確保および大学院進学への奨励と対策（継続）	20
施設整備計画委員会	教務主事	1. 施設・設備の維持・整備と改善（継続）	23
紀要編集委員会	委員長	1. 紀要投稿数の増募推進（継続）	24
環境マネジメント委員会	企画担当 副校長	1. 環境負荷の少ないキャンパス作り（継続）	25
国際交流センター	センター長	1. グローバルエンジニア育成に向けた国際交流の推進（継続） 2. 低学年生のタイ人留学生への対応および学内外でのホームステイの基盤づくり（継続） 3. 教職員のグローバル教育（継続） 4. 情報発信の推進（継続）	26
知的財産委員会	テックセンター長	1. 知的財産戦略の普及啓発（継続）	32
広報委員会	委員長	1. キャンパスガイド等の内容充実（継続） 2. 八戸高専ホームページの内容の更新と充実（継続） 3. 本校公式 Twitter の更新と運用	34
総合情報センター委員会	センター長	1. 学内ネットワーク更新への対応 2. 学内サービス基盤更新への対応 3. 教育用計算機更新への対応 4. 情報セキュリティ対策の充実（継続）	35

図書館委員会	館長	1. 交流室の積極的な活用について(継続) 2. 読書習慣を身につけさせるための各種行事の充実(継続) 3. 蔵書点検の実施(継続) 4. 資格試験コーナーの充実(継続)	37
地域テクノセンター委員会	センター長	1. 産学官金民連携の推進(継続) 2. 共同研究の推進(継続) 3. 地域への貢献(継続)	38
地域文化研究センター委員会	センター長	1. 校内および地域における教養教育活動の推進	43
廃水処理施設管理運営委員会	施設長	1. 廃水処理についての認識の強化 2. 廃水処理施設設備の更新	44
相談室運営委員会	室長	1. 学生支援・合理的配慮体制の整備の推進 2. 要支援学生の把握とフォロー 3. 学生支援の連携体制について	45
危機管理関係	企画担当 副校長	1. 新型コロナウイルス感染症への対応(継続) 2. 緊急時の情報伝達および安否確認方法の改善(継続) 3. 学内におけるリスクの調査(継続)	47
男女共同参画委員会	委員長	1. 女性教職員および女子学生の研究・就業・就学に対する支援 2. ダイバーシティ推進に関する広報の継続	55
キャリア教育・学習支援センター	センター長	1. キャリア構築のための全学的支援プログラムの充実(継続) 2. 低学年の学習支援体制の検討と充実(新規) 3. 進学支援体制の検討と充実(新規)	60
教育プログラム委員会	委員長	1. 教学アセスメントプランの検討	66
教育プログラム計画委員会	委員長	1. 外部評価への対応(継続)	67
教育プログラム点検・評価委員会	委員長	1. 授業点検の実施 2. エビデンス点検と点検体制の見直し 3. シラバス及び自己チェックリストの点検の実施 4. 規則改正	68
総合科学教育科	科長	1. 教育内容の充実 2. 情報共有と連携 3. 業務量の均等化と負担軽減	69
機械・医工学コース	コース長	1. キャリア支援(継続) 2. 増募対策(継続) 3. ものづくり教育の見直し(新規)	71
電気情報工学コース	コース長	1. 基礎学力の向上(継続) 2. 進路支援(継続) 3. 増募対策(継続)	73
マテリアル・バイオ工学コース	コース長	1. 増募対策(継続) 2. 進路支援の充実(継続) 3. 専門分野における地域貢献(継続)	74
環境都市・建築デザインコース	コース長	1. コース志望者の増募対策(継続) 2. 環境都市・建築デザインコースの教育環境および資格関係の整備・見直し(継続)	75
教育研究支援センター	センター長	1. 研究・教育活動に関する技術支援(継続) 2. 東北地区高専および他機関との連携の推進(継続)	76

空間構造デザイン系	系長	1. 選択科目「空間デザイン」の授業内容検討（継続）	77
ロボティクス系	系長	1. 系担当の授業内容等の充実（継続）	78
機能創成材料系	系長	1. 機能創成材料系における授業内容等の検討	79
エネルギー系	系長	1. エネルギー系所属教員の専門性を活かした授業方法の構築（新規）	80
ナノテクノロジー系	系長	1. ナノテク系開講科目授業内容の充実（継続）	81
環境・バイオテクノロジー系	系長	1. 系担当の授業内容についての検討（継続）	82
数理情報系	系長	1. 数理情報の授業内容の検討（継続）	83
産業教育系	系長	1. 国際感覚を養う・グローバルエンジニアを目的とした授業の計画と実行 2. 新カリキュラムにおける産業教育系の授業内容の検討	84

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	運営委員会
行動計画	1. 新型コロナウイルス感染症への対応（継続） 2. オンライン会議の実施（継続）

1. 新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症の流行が始まって3年目となる令和4年度は、オミクロン株の影響と思われる前年度末からの第6波が続く中で始まり、夏の第7波、秋から冬の第8波と、2度の全国的な感染拡大に見舞われた。特に感染者数は第5波までに比べて急激に増加した。本校では校内体育大会や高専体育大会等の行事をきっかけとしクラスターも発生し、7回にわたり全校一斉またはクラス単位での自宅待機・遠隔授業の実施を余儀なくされた。一方、令和4年度は感染者や濃厚接触者の待機期間の短縮、陽性者の全数把握の見直しなどが行われた。本校でもこれらの変更に対応しつつ、地域や校内での感染状況を踏まえながら八戸市保健所と連携して様々な対応を行った。

新型コロナウイルス感染症への対応については、日々変化する状況に応じて短期間のうちに対応案を決定する必要があり、基本的に毎月1回開催の運営委員会での審議を経ることが難しい場合もあるため、令和4年度も内容に応じて拡大メンバーを加えた企画室会議で審議した結果を運営委員会に報告し、承諾を得ることも多くなった。新型コロナウイルス感染症に関連する対応について運営委員会で審議・報告された主な項目は以下のとおりである。

- ・R4年度の在校生及び新入生への対応方法と周知について
- ・全校一斉およびクラス単位での自宅待機と遠隔授業実施について
- ・濃厚接触者の待機期間変更への対応について
- ・陽性者の療養期間短縮への対応について
- ・陽性者の全数把握見直しへの対応について
- ・マスク着用判断の見直しへの対応について
- ・夏季休業中及び全国大会参加時のコロナ対応に関する顧問教員への協力依頼について
- ・校内のコロナ個別対応に関するクラス担任への協力依頼について
- ・クラス担任を中心とするコロナ個別対応の体制案について
- ・自動メール送信システム等を活用したコロナ個別対応の体制案について
- ・学生自身による濃厚接触者の特定について
- ・コロナ対策部会およびコロナ初期対応WGの設置について
- ・八戸市内高等教育機関4校連携による新型コロナワクチンの職域接種について

2. オンライン会議の実施

本校における教職員の感染防止対策の一環として、長時間に及ぶことの多い運営委員会における密を回避するため、令和4年度も運営委員会のオンライン開催を継続した。大きな問題もなくスムーズに運営できた。なお、成績会議が併催される場合等を除き、教員会議も同様の形式でオンライン開催した。

—令和4年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	入学者選抜委員会
行動計画	1. 学校 PR の推進（継続） 2. 令和5年度入学者選抜方法の改訂

1. 学校 PR の推進

工学系に興味も持つ優秀な学生確保のために以下の学校 PR 活動を実施した。

(1) 学校 PR 活動

①入学者選抜懇談会

入学者選抜懇談会は昨年度と同様の4地区で開催し、中学校の進路指導担当教員への説明を行った。各地区の参加校数は、青森地区19校（昨年度14校、以下同様）、弘前地区17校（19校）、むつ地区5校（4校）、八戸地区63校（48校）であり、合計では昨年度より19校増の104校となった。

②中学校訪問

効率的に中学校の教員に対してPRができるように、入学者選抜懇談会に参加した中学校は訪問対象外としたうえで、受験実績が一定数以上の中学校、受験実績は少ないが3学年の生徒数が30名以上の規模の中学校および直近に入学実績のある中学校を中心に39校を訪問した。

③一日体験入学

開催時期を9月3日、4日に設定して、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として開催方法を見直し、日程を一日から半日に短縮しながら密を避けるなど感染防止対策をとったうえで実施した。実施にあたっては、青森県全域、岩手県北の中学校に対して開催を周知し、参加者数は672名であった。

④中学校進路指導説明会（高校説明会）

各中学校で、3年生（または2年生）やその保護者などを対象として高校等の学校紹介を行う進路指導説明会（高校説明会）に参加し、直接、中学生やその保護者にPRした。同説明会への講師派遣希望アンケートを、津軽地域を加え、三八地区、上北地区、下北地区、東青地区、中南地区および岩手県北の中学校に送付したところ、訪問学校数は29校（対象1833名）となり、結果としては前年度（22校、1419名）を上回る結果となった。来年度は、入学者選抜懇談会や中学校訪問でも説明会への参加を依頼することで、中学生や保護者に直接説明できる機会を得られるよう取り組みを継続していくことが必要である。

⑤県立高校入学者選抜要項説明会

県内6地区で開催される県立高校の入試要項説明会については、全ての地区へ説明者を派遣する予定であったが昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大防止のため本校の参加は見送られ、資料の送付のみとなった。

⑥青森市立中学校長会

青森市の中学校長会において、本校の概要を説明させていただいているが、昨年同様新型コロナウイルス感染拡大防止から本校の参加は見送られ、資料の送付のみとなった。

⑦国公立高専合同説明会

高専機構主催で6月6日アキバ・スクエアにて開催されたKOSEN FES2022に出展し、全体説明並びにブースにおける個別相談を実施した。推薦選抜定員の拡大、国際的エンジニア育成特別選抜に関して参加者から関心が寄せられた。

(2) 令和5年度志願者倍率

令和5年度本科の入学志願倍率は下表の通りであった。推薦と学力を合わせた合計では1.4倍、令和5年度入試より開始した国際的エンジニア育成特別選抜と第2次募集を含めた合計では1.5倍となり、昨年度より減少した。高校との併願においては昨年同様、成績上位の志願者に八戸高校を第1志望とする者が多く、県立高校の合格発表後に入学を辞退している。15歳人口が急減していくなか、志願者を増やすため、国際的エンジニア育成特別選抜の新設、推薦選抜定員の増加、推薦選抜における第二志望の導入、複数校受験制度の新設といった改革を導入し、例年実施している増募事業での説明に加え、教育委員会や教育事務所等への訪問、入試改革に係るチラシ作成及び青森県、岩手県北・沿岸の全中学校3年生生徒全員への配付等により周知徹底していたところであったが、これまで以上に中学校への本校入試制度の説明をより一層工夫し、青森県内・岩手県北地区以外への増募事業への参加も増やし、全国から志願者を集めることが必要である。

コース名	R5年度					R4年度			R3年度		
	国際	推薦	学力	2次	合計	推薦	学力	合計	推薦	学力	合計
機械医工学	3.3	0.6	2.3	-	1.5	1.1	2.0	1.5	1.2	1.7	1.4
電気情報	6.0	1.2	3.5	-	2.6	1.9	3.1	2.1	2.3	3.7	2.4
マテリアル	3.3	0.8	2.1	0.5	1.7	1.5	2.3	1.7	2.1	3.3	2.1
都市建築	3.0	0.9	1.8	0.7	1.6	1.9	2.3	1.6	1.4	2.1	1.6
全体	3.9	0.9	2.4	0.6	1.5	1.6	2.4	1.7	1.7	2.7	1.9

2.入学者選抜方法の検討（継続）

(1) 本科入試

① 国際的エンジニア育成特別選抜の新設

本制度の特徴

- 国際的エンジニア育成特別選抜内定者に対して、受験勉強に捉われず、中学3年生の冬休みや春休み等を利用したプレ自主探究を実施。
- 海外研修に優先的に参加可能。各コース1名、1回に限り渡航、滞在費が免除。
- 令和4年度新築の国際寮（全室個室）に優先的に入寮

- タイ、シンガポール、モンゴルなどの学生とともに実施する国際自主探究活動に参加
- 本科卒業時に所定の条件を満足したものは、卒業時「グローバルエンジニア育成プログラム修了生」となる。

② 推薦選抜定員の増加

推薦選抜の定員を 50%→60%に増加した。

③ 推薦選抜における第二志望の導入

推薦選抜は、第一志望コースのみを対象としていたが、令和 5 年度入試から第二志望まで対象とした。第一志望で不合格となった場合でも、第二志望で合格となる場合がある。

④ 学力選抜定員の変更

学力選抜の定員を 30%に変更した。なお、選抜方法に変更はなく、県立高校との併願も可能とした。

⑤ 複数校受験制度の新設

学力選抜試験において八戸高専、秋田高専、仙台高専の 3 高専の中から志望順をつけて応募することができる制度を導入した。この制度を利用して 4 名の生徒が八戸高専に入学した。

⑥ WEB 出願

学力・推薦とも WEB 出願とする。

⑦ 2 次募集の実施

学力試験終了時点で、入学者数が定員に達しない見込みとなったため、マテリアル・バイオ工学コース、環境都市・建築デザインコースを対象に 2 次募集を実施した。入学者の選抜は、調査書の内容及び面接試験の総合判定に基づいて行った。

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	教務委員会
行動計画	1. 教務関係規則等の整備（継続） 2. モデルコアカリキュラムへの対応（継続） 3. 教育の質保証への対応（継続） 4. タイからの留学生への対応（継続） 5. 教務システムの更新 6. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度への申請

1. 教務関係規則等の整備（継続）

高専間単位互換制度に対応するため以下の規則改定を実施した。

- ① 国立高等専門学校間単位互換の推進に関する要項の実施に伴い、本校学生の他高専の授業科目履修にかかる手続き等を規定するために八戸工業高等専門学校における他大学等において修得した授業科目の単位認定に関する規則の一部改正を行った。
- ② 特別聴講学生の受け入れについて、国立高等専門学校間単位互換の推進に関する要項にかかる内容を条文に追記するため（第54条の2関係）八戸工業高等専門学校学則の一部改正を行った。
- ③ 国立高等専門学校間単位互換の推進に関する要項の実施に伴い、他高専の学生の身分を特別聴講生として規定するため、八戸工業高等専門学校特別聴講生規則の一部改正を行った。
- ④ R4 冬学期より全コース対象に集中英語演習Ⅳを追加し、英語教育強化するため、八戸工業高等専門学校学業成績評価及び学年の課程修了並びに卒業認定に関する規則の一部改正を行った。
- ⑤ 教学 IR を推進するため八戸工業高等専門学校教学 I R 室規則を新たに設けた。
- ⑥ 高学年の英語教育の充実のため、平成 28～29 入学者の卒業による教育課程表・コース別履修可能単位数表の廃止のため八戸工業高等専門学校学則の一部別表 1（第 13 条関係）、別表 2（第 13 条関係）の改正を行った。
- ⑦ 令和 2～4 年度入学者の課題研究に「集中英語演習Ⅳ」および「英語演習 C」を追加するため、また、平成 27～31 年度入学者の課題研究に「英語演習 C」を追加するため、さらに廃止となった検定（ラジオ音響技能検定、デジタル技術検定）削除のため（令和 5 年度以降入学者から適用）八戸工業高等専門学校学業成績評価及び学年の課程修了並びに卒業認定に関する規則の一部改正を行った。
- ⑧ 八戸工業高等専門学校再試験実施細則において再試験を実施しない科目に解析学Ⅲを追加、さらに産業システム工学セミナーの削除（令和 5 年度入学者以降）、機械・医工学セミナーの追加（令和 5 年度入学者以降）、電気情報工学セミナーの削除（令和 4 年度入学者）、平成 27～29 年度入学者の卒業による表の削除を行った。
- ⑨ 八戸工業高等専門学校研究生規則において現状の規則では、卒業証明書（卒業式後に発行）がなければ出願ができず、年度末までの短期間で選考や手続きを行う必要があったのを見直すため、また、申合せでは、出願は 2 月末までと記載されており、規則との不整合が生じていることを見直すため一部改正を行った。

2. モデルコアカリキュラムへの対応（継続）

（1）Web シラバスの運用

Web シラバスシステムについて、令和 5 年度シラバスへの更新手続きに関する情報を全教員に社内メールで配信し、予定通り 4 月 1 日までに全科目で新年度シラバスを公開した。

(2) 令和5年度カリキュラムに関するMCC対応確認

令和2年度入学生から適用するカリキュラムの改正作業にあたり、科目の改廃等によるMCC対応の変更について調査し、全コースで完全に対応することを確認した。また本部からの指示に対応し、令和5年度開講科目についてMCCとの対応確認を行い、指定された入力管理表により報告した。

3. 教育の質保証への対応（継続）

(1) e-portfolioの推進

令和2年度より1~3学年を対象としたポートフォリオ教育を実施してきた。学生自身がそれぞれポートフォリオを作成し、これを活用した教育を目指している。令和4年からBlackboard上でポートフォリオを作成、学生と担任が情報共有する体制を整えた。また、学生が成績を入力するExcelファイルを作成し、学年ごとの単位修得状況を把握できる体制とした。学生の成績データは、Blackboard上で担任教員と情報共有され、学習指導やクラス運営に活用できるシステムを構築した。令和4年度からは全学生を対象としたe-portfolioを活用した指導が可能となる。

(2) 実験スキルシート導入の推進

H30年度入学生からのMCC完全適用に対応し、実験・実習科目における実験スキルシートを導入している。各コース教務委員より実験スキルシート作成について依頼を行い、スキルシート作成の定常的な運用を目指している。

(3) 分野横断的能力の育成プログラムの明確化

令和3年に教務委員会にて作成した自主探究活動を核とした分野横断的能力の育成プログラムに基づいて教育活動を実施している。以下に教務委員会にて作成した入学前から卒業までの自主探究活動を核とした分野横断的能力育成プログラムを示す。

八戸高専における自主探究活動を核とした分野横断的能力の育成プログラム

整理項目	年次	入学前 APとの関係	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	卒業後 DPとの関係
分野横断的能力の育成ステップ		・ものづくりや科学技術に興味	探究活動を自分の方法で行い、報告書を作成、発表する	信頼性の高いデータ収集を行い、科学的、客観的な考察をして発表する	信頼性の高いデータ収集を行い、科学的、客観的な考察をして発表する	卒業研究に向けて専門分野の論文を調査し、簡潔にまとめる	研究目的に沿った探究方法を自ら調査するとともに研究成果を既知の情報と関連付けて説明する	・専門知識 ・課題発見力、探究心
学生の状態 (ルーブリック)		・技術を通して社会に貢献する夢のある人	明確な目的があり、オリジナルなテーマを考え出し、結論を導くことができる	明確な目的の元にオリジナルなテーマを考え出し、結論を導くことができる	明確な探究目的に向かって、実現可能なテーマを設定し、結論を導くことができる	卒業研究に向けて専門分野の基礎的な内容を調査し、簡潔にまとめることができる	卒業研究で研究背景を理解し、明確な目的のもと研究を行い、他の研究と関連付けながら結果をまとめることができる	・専門知識 ・課題発見力、探究心 ・情報処理能力
学生の活動		・自分の意見や考えを表現できる人	自主探究活動において行われるファシリテータワー、中間報告会、ポスター発表会等の活動を通じて汎用的技能、態度・指向性総合的な学習経験と創造的な思考力を育成する			・卒業研究テーマに沿った研究活動の実施 ・ファシリテーターとして3年生以下の自主探究のサポートを行うことにより汎用的技能、態度・指向性を育成する		・豊かな人間性の涵養 ・コミュニケーション能力
教育方法		・AP全般	自主探究および分野横断的科目群によって育成	自主探究および分野横断的科目群によって育成	自主探究および分野横断的科目群によって育成	自主探究および分野横断的科目群によって育成	卒業研究および分野横断的科目群によって育成	・DP全般
評価（確認）方法		-	各科目のルーブリックに基づく					-
学生の認知		-	ポートフォリオ並びにポスター発表等の場における意見交換					-
教員の役割		-	・自主探究活動の年間計画に基づきコーディネーターとして自主探究活動を補助するほか、専門的な分野から研究アドバイスや研究のサポートを実施 ・分野横断的科目担当教員によるカリキュラムマップに基づく授業の実施			・卒業研究指導の他、各種セミナー、見学旅行、就職、進学支援等の総合的な指導を実施		-
地域等との関わり		・ものづくりや科学技術に興味 ・技術を通して社会に貢献	・海外学生と連携した国際自主探究の実施 ・社会実装を目指した自主探究活動 ・地域社会と連携した自主探究活動の実施 ・出前授業、公開講座等における本校学生の参加 ・企業内容説明会の参加			・企業等との共同研究 ・地域社会に関連した研究活動の実施 ・各種講演会 ・校外実習 ・企業内容説明会		地域社会への貢献

(4) 学生情報の集約および共有の実施

学生の成績情報をはじめ各種学生情報を教員が共有できるシステムの構築を目指し、新教務システムの仕様策定を行った。本システムは令和6年度から稼働予定である。

4. タイからの留学生への対応

前年度に作成した日本語学習プログラムに基づき、入学前の留学生に対し、11月以降週4時間程度オンラインで日本語指導を行い、初級レベルの日本語能力と中学校程度の科学用語の定着をはかった。入学後の留学生に対しては1年修了時にN3、2年終了時にN2合格を目標とし、夏休み期間中に補講を実施した。

5. 教務システムの更新

仕様策定委員会を中心に、他高専や関係部署にヒアリングを行い、新教務事務システムに盛り込むべき機能を精査した。これを踏まえて本システムの仕様策定を進めており、令和5年度中の稼働を予定している。

6. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度への申請

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度への申請を令和4年5月に行い、令和4年8月に認定された。その申請にあたっては、認定対応のため、対応カリキュラムを精査し令和3年度から実施実績のある、「情報リテラシー」、「ものづくり基礎」、「応用数学Ⅱ」を基にして申請を行う方針とした。また、令和4年度のカリキュラム改正にて、新科目「数理・データサイエンス」を新設した。また、留学生にもプログラム認定を行うために4年次の日本語科目を「情報科学日本語」として、留学生が受講しない「情報リテラシー」、「ものづくり基礎」の部分の対応を図った。これにより、一般入学生や、3年次編入留学生らを含め、本校学生全員がプログラム認定可能な体制とした。これらの修正について、令和5年3月に修正申請を行った。

—令和4年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	厚生補導委員会
行動計画	1. 学生指導・支援の充実（継続） 2. 学生会活動の活性化支援 3. 課外活動運営のための体制整備 4. 学生の社会性醸成の支援

1. 学生指導・支援の充実（継続）

(1) 奨学金等の支援について

各種奨学金制度等については校内での案内の掲示、学生・保護者へのメール、HPだけでなくさくら連絡網を活用して全保護者へ周知し、情報提供を推進し学生支援の充実を図っている。

日本学生支援機構給付型奨学金 74名

日本学生支援機構貸与型奨学金 49名

入学料免除：全額免除1名

前期授業料免除（修学支援新制度）：全額免除34名、3分の2免除20名、3分の1免除12名

後期授業料免除（修学支援新制度）：全額免除34名、3分の2免除25名、3分の1免除8名

卓越した学生に対する授業料免除：半額免除4名

青森県国公立高校生等奨学のための給付金：26名

(2) 学生指導について

前年度に比較して、問題行動の指導だけでなく、背景にある学生の持つ社会認識に対して指導が必要となったことが特徴である。

ソーシャルネットワークの利用に関しては情報リテラシーの学習や各種の講演会を通して啓発活動を行っているが、依然トラブルが多く、対応に苦慮する事案が多い。

(3) 学校生活支援について

ア 生活・健康・学習目標の取組み

生活・健康・学習目標は、目標をもって行動しようとする態度を養うことを目的として1学年から3学年までを対象に実施している。目標を通して学生一人一人が自己の生活や健康を見つめることで、自分の生活や健康状態の現状に気づき、行動を変えようとする意識形成につなげるものであり、継続して実施してゆく予定である。集計データは、保健指導相談員及び学生主事が分析を行い、コメントを付して次月にクラス担任へ渡し、学生の動向把握やクラス指導・援助に活用されている。

イ 生活チェックシートを活用した自己改革支援

1年生から3年生までの学生が『自己の課題に気づき、改善に取り組む雰囲気醸成すること』を目的に生活チェックシートを活用した自己改革支援を継続的に実施している。

生活チェックシートは、主に学習に関する観点、主に行動に関する観点、主に健康・安全に関する観定の3観点20項目で構成されており、各項目に対して、AからDの4段階評価で作成された

シートで、学生一人一人が自身でセルフチェックを行うものであり、道徳的視点に基づく社会適度を自己評価して継続的に自己改革を行う視点を身に付けさせることを目的とし、一人一人が話し合った事柄を踏まえて学校生活を過ごし、学年末に2回目の生活チェックシートを実施してその結果を次年度の学級担任に引き継ぎ、学生の指導・援助に役立てている。

ウ 合理的配慮に対応する規定等の整備について

本校ではこれまでも出身中学校等の協力を得て『入学予定者に関する支援情報提供』を提供してもらい、特性を持つ学生が入学後円滑に本校の修学環境で学べるように保護者との話し合いや環境の調整を実施してきた。近年支援の必要な学生は増加する傾向がみられることから、『八戸工業高等専門学校合理的配慮検討委員会』規程を整備し合理的配慮を提供するための組織的な体制について整備を行った。委員会組織下に『コアサポートチーム』を組織し、支援の必要な学生に対してコアサポートチームが核となる支援体制としたことが特徴である。

2. 学生会活動の活性化支援

中止となった4月の新入生対面式に代わる企画として1年生についてクラブ活動紹介を行う日程を設定し、学生会の1年生のクラブ活動加入への取り組みを支援した。

また、『キャンパス創造プロジェクト』については学生会執行部が主体となって取組むこととなったため、厚生補導委員会として学生自身の構想を生かしつつ、愛着の持てるキャンパスとなるよう、調度品・床の色合い・壁の色合いなどについての何パターンもの試行・討論を見守りつつ、助言や資料提供の支援を行った。コロナ禍で時間的制約が多く限られた時間での取り組みとなったが、福利厚生会館に実現したゆったりとしたカフェ風の空間は学生にも好評である。

3. 課外活動運営のための体制整備

(1) 情報共有・連絡体制の強化

課外活動運営に対して教職員だけでなく、学生と保護者の理解が得られるよう情報の共有と連絡体制の強化に努めた。7月初旬より再び感染者が増え始めたため、7月中旬以降に開催される大会等への出場についても難しい判断を迫られる場面もあったが、『さくら連絡網』を活用して都度連絡を行うように心掛けるだけでなく、保護者からの率直意見を丁寧に聞くようにし、保護者の思いを汲みつつ学校の方針に理解が得られるように努めた。

(2) 東北地区高専体育大会への対応

新型コロナウイルス感染症の拡大を防止しつつ、1000人規模の大会運営を行うべく対応した。

具体的には『①事前観察の強化』、『②大会移動・参加中の観察強化・安全確保』、『③終了後観察の強化』の観点で対応し、①は大会前14日間の健康観察・発生報告を徹底し、陽性者が発生したクラブについては大会参加を見合わせる厳しい対応を取らざるを得なかった。②については各クラブに検査キットを携行させるとともに、陽性となった場合の宿泊対応室を1室確保して陽性者の発生に備えた。

③については終了後の観察強化中心に対応した。しかしながら、想定された参加選手間の陽性者以外に、県外へ応援に行った学生が八戸に戻って以降陽性が判明する等の想定外であったケース

も発生するなど、人流を抑制しない形でのコロナ禍対応の難しさが露呈した。

4. 学生の社会性醸成の支援

コロナ禍による社会情勢の変化は本校の学生同士の人間関係にも波及している。コロナ禍以降クラブ加入率が減少傾向にあり、学生がクラブ等通じた『社会性を学ぶ機会が減少している』ことが危惧される。このため本校では学生と教職員との対話だけでなく、学外から講師を招いて各種講演会を積極的に実施し、学生の『社会を学ぶ機会』の確保と社会性醸成のための支援を行っている。

令和4年度は成人年齢の引き下げに関する法律施行を踏まえて特に3年生に対して意識啓発に努めている。

【令和4年度実施した講演会一覧】

1年生

【いじめ防止講演会】

日時：令和4年7月19日（火）14：40～16：20

場所：合併教室

講師：外部講師

人数：学生170名、教員4名、事務職員2名

【性に関する講演会】

日時：令和4年10月25日（火）14：40～16：10

場所：第二体育館

講師：外部講師

人数：学生170名、教員5名、事務職員2名

2年生

【薬物乱用防止講演会】

日時：令和4年11月7日14：40～16：20

場所：合併教室

講師：外部講師

人数：学生172名、教員4名、事務職員2名

3年生

【交通安全講話】

日時：令和4年12月15日（木）、16日（金）10：30～11：30

場所：記念会館

講師：外部講師

人数：学生170名、教員4名、事務職員2名

【消費者出前講座】

日時：令和4年7月7日（木）、11日（月）14：40～15：40

場所：合併教室

講師：外部講師

人数：学生170名、教員4名、事務職員2名

5年生

【飲酒運転防止講座】

日時：令和4年11月16日（水）10：30～12：00、13：00～14：30

場所：合併教室

講師：外部講師

人数：学生146名、教員3名、事務職員1名

その他

【1年生及び希望者対象 女性のための防犯講座】

日時：令和5年2月20日（月）8：40～10：20、10：30～12：00

場所：記念会館

講師：外部講師

—令和4年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	寮務委員会
行動計画	1. 寮生の健康管理徹底と生活意識向上の支援（継続） 2. 寮生の自主的活動の支援（継続） 3. 施設・住環境の改善（継続） 4. 運営・管理業務の見直し（継続）

I.寮生の健康管理徹底と生活意識向上の支援（継続）

1. 寮生の健康管理

新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を令和3年度から継続して実施するほか、「ユニット集会」及び「ユニット集会だより」等を通じて、寮生の日々の健康管理と生活意識の向上を呼びかけた。

（なお、令和5年2月には学校の対応変更に伴い、学寮内での一時待機措置など、以下の対応から一部緩和措置を行っている。）

1-1：クラスター感染を予防するための指針及び経過観察棟の設置

・新型コロナウイルスのクラスター感染を防止する観点から、『平熱プラス1℃以上(概ね37.5℃以上)』の発熱や体調不良になった場合には原則24時間以内に自宅へ帰宅させる対応を行った。

・要経過観察となった学生は保護者の送迎を待つ段階から経過観察を行う『L棟』で待機することとし、『疑い』の段階での『分離』と『帰宅』の徹底に努めた。

・また、長期寮閉寮期間後の帰寮の際は、寮務委員で業務を分担しながら学生一人一人の『検温』と『健康チェック』を行ってから入室を許可し、体調不良者からの感染防止に努めた。

1-2：日常生活の対応

・寮生についてはマスクの着用徹底を呼び掛け、前年度同様、定時の検温報告義務化を継続し、平日は指導寮生（4月からは9月は国際棟のみユニットリーダー）が検温確認と点呼を行い、宿直者へ報告する体制だったが、11月以降は、ユニット単位でユニットリーダー又はサブユニットリーダーがその業務を担当する体制に改めている。これによりユニット単位での指導的立場の寮生が一定の責任を果たすことにより寮生同士の連帯が強まることとなり、未報告によるトラブルが大幅に減少している。

・食事については密集を予防するため、食事時間を2交替制とし、食事する寮生数は通常時の半分程度とし、密度を超えないように努めた。また、給食業者の協力を得て食事中の換気とテーブル等の除菌を徹底しつつ、座席配置を対面しない形式に改め、黙食を呼び掛けるなどして飛沫感染の防止をはかった。

・入浴についても、時間入替制とし、衣類かごを使用せずに持参したビニール袋へ衣類を収納するように徹底し、器具の共用による感染の防止をはかった。

・アルバイトについては家庭の経済事情で特別に必要と認められる場合を除き、禁止とした。また、門限を一昨年度から高学年生も早め、市中感染からの寮内クラスターの発生防止に努めた。

・ユニット集会についても大食堂及び小食堂を利用した『入替制』とし、密集・密接・密閉の防止に努めた。またユニット集会だよりを説明した後、各フロアに掲示することで、集会の時間短縮を図った。

1-3：緊急時の対応

・1-2に示すような感染拡大の防止に努めたが、寮内においても感染疑いの学生が発生したことにより、当該学生とその学生の同室の学生は経過観察で帰宅させることがあった。また、ユニットでも寮内待機の対応を試みたが、校内で感染者が増え、一時的に寮を閉鎖する措置を取り、感染拡大防止に努めた。令和3年度からのノウハウの蓄積もあり、寮閉鎖時も滞りなく対応を行い、感染拡大を防止することができた。

II. 寮生の自主的活動の支援（継続）

2-1 寮生会執行部

・各委員長に対して、5月に年間計画を提出させて、6月に寮生総会を放送、FORMSでのオンライン参加の形式で実施し、コロナ下においても、感染対策を行いながら積極的な活動を行うよう促した。

2-2 各委員会の活動

(1)防犯・防災委員会

・コロナ禍ではあったが、留学生を含む寮生全員の防災意識を喚起するため、防災業者の協力を得て、5月に避難訓練を行った。『素早く・的確に避難すること』に焦点を絞り、実践的訓練となった中で避難完了までの時間を短く行うことができた。

(2)寮祭実行委員会

・寮祭については、当初の予定の6月から延期し、コロナの感染状況を考慮しながら慎重に日程の検討を行い、最終的には2月に簡易化して実施した。かつての本格的な寮祭とは異なるが、ビンゴ大会等、3年ぶりの寮祭を楽しみ、学生間の交流を深めることができた。また、コロナ禍で実施できなかった間にも、寮務委員と寮祭実行委員会の打ち合わせは継続的に実施し、学生間でノウハウが継承されるように努めるようにしてきた取り組みが活かされた。

(3)スポーツ委員会

・寮祭と同様、コロナ禍によりスポーツ大会の実施は延期を強いられたが2月に寮祭の一部として実施した。寮祭2日目には、バブルサッカーを行い、コロナ禍にあっても、自主的活動の意欲を失わない寮生の姿を見ることができた。次年度は寮生同士の親睦を深められるように環境を整えながら実施を目指したい。

(4) ゴミゼロ運動

・八戸市が主催する『ゴミゼロ運動』は寮生と地域住民と一緒に地域の清掃活動に参加し、地域住民との親睦をはかる貴重な機会であったが、令和3年度は中止となっていた。令和4年7月に寮生20名程度が学校周辺のゴミ拾いを行うほか、地域住民と協力し雑草取りを行い、環境美化に貢献した。

11月には、令和3年度と同様に、厚生・衛生委員会へ働き掛けを行い、寮生有志30名程度が参加して、『落葉清掃活動』を実施し、学寮と学校周辺道路の清掃活動を行った。

III.施設・住環境の改善（継続）

1-1 国際フロア（A棟1階、B棟1階）ならびに体調不良者の待機棟の整備

・新たな混住型国際寮建設に伴い、新棟完成までの期間に本年度は留学生を含む国際フロアを一時的に設置した。A棟1階ならびにB棟1階に光回線を導入したことにより、男女それぞれの国際フロアを設置した。また、体調不良で保護者の迎えを待つ学生や経過観察の学生にL棟を使用し、校内及び寮内でのクラスター感染のリスクを低減させるように機能し、本校のリスク管理上も重要な施設となった。

1-2：経過観察中の食事環境の整備

・学寮内での給食設備は大人数が一斉に食事をとる形に整備されており、そのままでは経過観察となった学生とその他の学生を分離する設備が無いことが課題となった。このため、給食委託事業者であるシダックスフードコントラクトサービスと打合せを重ね、経過観察中の学生の食事はテイクアウト形式で食器も全て使用後廃棄可能な紙製とし、L棟内の補食室へ配達してもらい、学生が受取る体制を整えることが出来た。これにより待機時間が長い遠方からの保護者の到着までの間も安心して食事の提供を受けることができることになっている。

1-3：国際寮N棟の新営

・施設整備費補助事業により、新たな国際寮として、令和4年9月にN棟が完成した。9月には、竣工したN棟と、E棟・I棟を含め、3棟の混住型国際寮が完成したことを記念し、高専制度創設60周年記念事業として、多くの来賓の方をお招きして、お披露目式を行った。

個室の混住型国際寮が3棟となり、多くの寮生が入居できることとなった。

国際寮の先進モデルとして、函館高専・福井高専等の見学を受け入れた。

2. 衛生環境の維持の徹底

・清掃業者による毎月1回程度の水回りおよび共通区域の清掃（前年度から継続）を行い、清潔な環境を維持した。また夏季休業期間中に洗面所・トイレの特別清掃を実施している。

・また、点呼後20：40には寮生が一斉に清掃活動を行う時間とし、ドアのノブの消毒や水回りの除菌・清掃を行うことにより、共通区域の衛生環境の維持の徹底に努めた。

・非接触式体温計を各フロアで1台ずつ保有することで、接触感染のリスクは無く、測定に時間を要しないため点呼時の短時間でも指導寮生がフロアの寮生の体温測定が可能となった。

・害虫（ゴキブリ、蛾等）への対策として、ゴキブリが目撃された補食室を中心に捕獲器・駆除剤を設置した。また、8月の寮閉鎖期間には、廊下・補食室・談話室等へバルサン剤を噴霧し、害虫の駆除を行った。今後も状況を見ながら対応していく予定である。

・今年度も年度末の寮閉鎖時に全居室・廊下・トイレ・水回りの特別清掃を業者へ依頼して実施し、居住空間の清掃・除菌を徹底した。

3. 盗難防止対策

・入寮者（男子、女子）への個人用小型ロッカー（貴重品入れ）の貸与を行っている。これにより、寮生全員が小型ロッカーを持つことになった。今年度は金銭盗難事案の発生は報告されておらず、盗難防止に一定の成果が出ているものと見受けられる。

4. 寮生の要望を受けた改善

・女子寮生からの要望で、B棟以外に入居している女子寮生もB棟へ出入りできるように電子錠の設定を変更して施設利用の改善を図っている。また、緊急時に使用できる生理用品を女子棟内の全てのトイレ内に設置し、女性事務職員が定期的に巡回・補充する体制を整備している。このような女性目線の住環境の改善はこれまで実績が少なく、女子学生の入学者数が増加している本校で今後強化して取り組む必要がある。

・学生からの要望で、夜でも気温が下がらない場合には、部屋の電気を24時間使用できるように配慮を行った。今年度の夏も、暑くなった時期には、部屋の電気を24時間使用できるようにし、夜間でも居室で扇風機を使えるようにすることで熱中症予防に努めた。

IV.運営・管理業務の見直し（継続）

4-1：寮務委員会実施体制の見直し

・寮務委員教員の業務負担を軽減するため、委員会は原則毎週実施されるユニット集会の直前に1時間以内で実施することとし、会議時間の短縮を図った。会議に併せてユニット集会での連絡事項の確認等も行い、連絡漏れの防止を図っている。

4-2：対面式およびユニット親睦会の中止

・コロナ禍に伴い、今年も対面式・各ユニットでの親睦会も中止せざるを得なかった。これらの行事は寮

生どうしの交流を深めることに寄与し、自然な先輩後輩の関係が形成されるきっかけとなっている。この影響ためか、今年度は、先輩の注意に従わない等の問題行動が1年生に見受けられた。コロナ禍の影響で居室訪問も原則的に禁止となり学生同士の人間関係が希薄なものとなりがちであるため、今後実施方法を工夫しながら学生同士がつながる取り組みを進めていきたい。

4-3：混住型国際寮の運営指針検討

・令和4年9月に新たな混住型国際寮であるN棟が完成し、寮生募集を行い、11月から入寮開始した。4月から国際棟（I棟、E棟）で試行的に実施し始め、N棟の完成とともに、限定的な運用をしていたユニット制を、全ての棟に拡大しユニットリーダーの指導の下、寮生活の生活向上を目指した。

また、点呼時間を国際棟のみ21:00、一般棟は20:00で行っていたが、ユニット制の全面適用にともない全棟で21:00を門限・点呼時間に変更した。

国際寮の運営指針について、令和3年度から継続検討を行った上で令和4年度に大幅な改革を実施しているが、令和5年度にも施設整備補助事業による混住型国際寮の新営工事が始まるため、運用上の課題などを精査し、改善すべき点は改善しつつ、混住型国際寮のよりよい運営を模索していきたい。

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	専攻科委員会
行動計画	1. 新型コロナウイルス感染症に対する対応（継続） 2. 多様化する専攻科の制度整備（継続） 3. 確実な学位取得・修了へ向けた支援体制の整備（新規） 4. 入学者の確保および大学院進学への奨励と対策（継続）

1. 新型コロナウイルス感染症に対する対応（継続）

1.1 SHRと朝清掃について

昨年に引き続き、安否確認のためのSHR、教室内の消毒を含めた朝清掃を本科と同様に実施した。SHRの方法は、コース主任がSHR中にコース内の学生の出席を確認し、教務事務システムに10:30までにSHRの出席状況を入力する。欠席する場合には、学生本人からMicrosoft Forms（様式0）にて連絡させる。特に、連絡なく欠席している学生には、コース主任が連絡し状況を確認する。また、二日無断で欠席のまま本人と連絡が取れない場合は、コース主任が保護者に連絡するとともに、当該学生の状況を学生係に報告し、学生係はリスク管理対応共有メールを立ち上げる。朝清掃については、AM：Mフレックス、AE：Eフレックス、AC：専攻科講義室、AZ：専攻演習室1・2と分担して実施した。

1.2 学外研修の対応

令和2・3年度の学外研修はコロナ禍により制限されていたが、令和4年度からは、ワクチンの普及により感染リスクが軽減されてきたため、学外研修をコロナ禍以前の従来の状態に戻して実施した。専攻科1年生24名中、4名が国外、14名が国内の学外研修に参加した。国外については、4名ともフランスIUTであり、国内については、14名中4名が2か所の学外研修を実施したため、延べ数にすると、18件となる。このうち、企業等が14件、大学が4件であった。

1.3 専攻科1年生後期授業

11月末までの実習となる国外学外研修者については、帰国後1週間程度の感染リスクの軽減のために、1週間程度の待機期間を設け、12月から授業に参加することになった。各コース実験Ⅱ（1単位）の開始は、国外学外研修者がいないコース（AC、AE）は10月、国外学外研修者がいるコース（AM、AE）は12月からとした。

1.4 コロナ禍における特別研究等の対応

令和2年度に「新型コロナウイルス感染症拡大防止のための自宅における特別研究の実施に関する要項」を定め、令和2・3年度については、1週間単位の許可制で特別研究、工学研修を、自らのPC等で実施可能な特別研究のデータ分析、データ整理、図表作成、文章作成、発表資料作成に限り自宅で行うようにしていたが、令和3年度にこの制度の利用者が現れなかった。また、ワクチンの普及により感染リスクが軽減されたこともあり、令和4年度には、この制度を運用しないことにした。

1.5 東北・北海道地区高専専攻科産学連携シンポジウム

令和4年11月25・26日、東北大学片平さくらホールにおいて開催された。令和2・3年度については、オンライン開催であったが、令和4年度はオンサイトとオンラインのハイブリット形式での開催となった。本校からは国外学外研修者を除く専攻科1年生全員（20名）が1泊2日の行程で参加し、AE1学生1名が優秀賞を受賞した。

1.6 特別研究最終発表会

令和5年1月20日に昨年に引き続き、対面開催とした。実施方法は、合併教室にて10:30～12:00に英語

発表（一人あたり発表3分）に行い、50周年記念ホールにて13:00～15:10にポスター発表および閉会式を行った。昨年、一昨年に引き続き、プログラム、概要集、発表者へ連絡等の情報公開の場とするSharePointサイト作成した。令和4年度からは、参加者に対する秘密保持を徹底するために、参加者全員に、Microsoft Formsによる秘密保持に関する誓約を行っていただき、誓約者のみが、発表会用に作成しているMicrosoft Teamsのチームに参加するためのコードと発表会用の専用サイトのURLを得ることができるようにした。また、令和4年度から、産業技術振興会の会員への案内を再開し、9名の参加申込があった。

2. 多様化する専攻科の制度整備（継続）

2.1 外国人留学生特別選抜B（国内の高専生対象）の新設

国内に留学している高専の外国人留学生を専攻科で受け入れるための新たな制度として、令和2年度（令和3年度入学）から運用している外国人留学生特別選抜の制度を参考にして、令和4年度（令和5年度入学）から国内の高専生対象とした外国人留学生特別選抜Bを新設した。従来から運用している専攻科外国人留学生特別選抜を国外に在住する外国人留学生を対象とした外国人留学生特別選抜Aとすることにした。

この制度を利用し、本校から1名の志願者があり、合格することができた。

2.2 外国人留学生特別選抜A

第3回の4校合同（函館、苫小牧、八戸、仙台）による専攻科外国人留学生特別選抜（本校では令和4年度（令和5年度入学）から末尾にAをつけて呼ぶことになった）を実施した。モンゴル国から5名の志願者があったが、八戸高専への志願者はいなかった。昨年に引き続き、モンゴルリエゾンオフィスの指定する会場でのオンライン開催となり、検査は事務担当校の苫小牧高専が担当した。5月23日に合格発表を行い合格者は4名（全て仙台高専）だった。

令和5年度（令和6年度入学）外国人留学生特別選抜については、事務担当校が八戸となり、前年度までの4校に旭川高専が加わり、5校合同で実施することになった。学校別の出願要件として本校では、「日本語能力試験N2レベル以上に合格しており、かつ、TOEIC（L&R Test）のスコアが500点以上であること。」との条件を加えた。また、小論文試験の作問が分担で割り当てられ、本校の2024年度入学担当分野はなしとなった。試験問題は令和4年度内に試験問題が確定することになった。募集要項は、2023年1月24日に公開され、出願期間：2023年4月3日～4月10日、検査日：2023年5月11日（検査会場：モンゴルリエゾンオフィスの指定する会場）、合格発表日：2023年5月29日となっている。

2.3 英語能力に関する修了要件の変更

グローバルエンジニア育成事業（高度育成プログラム）において「TOEICを専攻科において入試要件の+100を修了要件とする」と申請書に明記されていることから、令和5年度以降入学者の英語能力に関する修了要件をTOEIC L&R Test 500点以上から550点以上に変更を行った（3月1日運営委員会承認）。なお、令和6年度入学者については、TOEIC L&R Test 600点と変更していく予定である。

2.4 外国人留学生特別選抜における出願要件についての検討

外国人留学生特別選抜A・Bの出願要件のなかに、日本語能力：N2レベル以上、英語能力：TOEIC（L&R Test）500点以上という項目が含まれている。このことについて、特にモンゴル国で日本語を学習している学習者が、日本語能力に加え英語能力を向上させることが非常に厳しい状況であることが示唆されている。そこで、専攻科委員会にて、出願要件の改善について検討を開始した。この変更は修了要件にも関わり、志願者の出身国によっても状況が異なることから、慎重な議論が必要である。令和6年度（令和7年度入学）からの改正を目指して、令和5年度専攻科委員会にて議論を進めていく予定である。

3. 確実な学位取得・修了へ向けた支援体制の整備（新規）

3.1 エクセルによる履修及び修得状況の確認

特例による学士の学位の修得にあたって、単位修得の要件を満足するような履修計画が必要であり、専攻科委員会での履修に対する支援を行ってきた。これまでは、認定科目表にある単位の修得状況を各自で確認し、単位修得の要件を満足するかを確認してきたが、令和4年度からエクセルファイルにより、比較的容易に確認できる仕組みを作成した。このエクセルファイルは各コースの本科の履修コース別に作成されており、専攻の区分ごとの単位修得の要件に対しても確認可能である。また、本校の専攻科の修了要件の確認も合わせてできるようになっている。このエクセルファイルを各学生、コース主任、教務係で保有し、成績判定会議後に更新していくことによって、履修に対する支援を行っていく。

3.2 学位授与申請説明会等

専攻科1年生に対して1回（4月3日ガイダンス）、専攻科2年生に対して、2回（4月4日ガイダンス、8月10日学位申請に関する説明会）実施した。9月申請受付時および2・3月修了確定時ともに手続上大きな不備もなく進めることができた。

3.3 特例認定の見直しについて

学位授与機構より、特例認定について令和6年度10月期の申請分より申請時期や方法について見直しが検討されており、8月30日にこのことについてのオンライン説明会があった。主な変更点は以下の通りである。

- ① 「履修計画書」及び「成果の要旨」の項目が変更になる。
- ② 現行の「履修計画書・4年間の学修全体の省察」の項目が「成果の要旨」に移行する。
- ③ 「履修計画書」に倫理的配慮に関する項目が追加される。
- ④ 「成果の要旨」が現行の2ページから3ページとなる。
- ⑤ 特例申請に係る単位修得証明書の提出方法の変更になり、現行の単位修得証明書の紙媒体やシステムへの入力が無くなり、電子データ（エクセルファイル）のみの提出になる。申請者の対応は、2月に電子データを提出するだけとなる。

このうち、⑤の項目は令和4年度に試行での参加を行うこともできたが、既に学位授与申請説明会を学生に行っていたことから、本年度の試行参加は見送った。

令和5年度入学者から対応が必要になるため、令和4年2月1日に行われた専攻科進学予定学生説明会にてこのことについて説明を行った。

4. 入学者の確保および大学院進学への奨励と対策（継続）

平成30年度より専攻科の定員減に向けて検討を重ね、推薦入学の総枠を20名から16名に減らすと共に、入学者の確保を目指した。また、入学確約書の提出期限を従来通りの12月への移行により増募に努めてきた。令和5年度の入学者は22名となり、定員充足率78%である。

大学院進学への奨励として、専攻科1年生を対象として4月7日と7月21日の2回に渡って校長による「キャリア教育」において企業が求める人材や大学院での研究体制等の講義を実施した。大学院からの案内、ポスターについては適宜掲示を行ってきた。多くの大学・大学院の説明会は、多くがオンラインで行われ、希望する学生が参加した。令和4年度修了生の令和5年入学大学院進学者は9名であり、大学院進学率45%であった。大学院進学者の内訳は、学校推薦5名、学力4名であった。

—令和4年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	施設整備計画委員会
行動計画	1. 施設・設備の維持・整備と改善（継続）

1. 施設・設備の維持・整備と改善

(1) 現有設備の維持・整備に関する事項

従来の特種装置維持対象設備、マスタープラン導入設備、補正予算による導入設備を対象とした維持運営費について希望調査を実施し、委員会での審議を経て予算を配分した。計5件の配分希望があったが、年度当初から保守契約が必要なものを中心として、その他個別の状況を考慮して4件の配分を決定した。

令和3年度以降、特に『全学的共同利用設備』の観点に重きを置き、配分決定を行っており、維持運営費の希望調査時に機器の使用簿を確認し、全学的共同利用設備としての利用実績を加味した上での配分決定を行った。

なお、設備の年間保守契約費用の値上がりに伴う予算的な対応として、使用教員等の教育研究費からの一部自己負担を求めることとした上で、稼働率の低い設備については、設備を管理しているコースに対して、今後の維持について検討を行うように求めた。

予算の状況次第では、第1次調査だけでなく、第2次の調査を実施し予算配分する可能性があるが、令和4年度は令和2年度、令和3年度と同様に予算の確保が困難であったため、年間保守契約を対象とする第1次調査のみとした。

(2) 施設の維持・整備と改善に関する事項

施設面では、委員会でも、例年の審議事項である遊休資産の確認を目的とする「保有資産利用状況報告書」の確認を行った。本校の保有資産について、令和4年度には、中村団地の国庫返納、施設整備費補助事業による混住型学生寮の完成などの増減があった。

その他、本校の抱えるインフラの老朽化等計画的に整備が必要である事項について、随時情報共有を行い対応することとした。具体的には、学内のトイレ整備計画の策定、福利厚生会館のリニューアル、令和4年度補正予算 大学改革推進等補助金「高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業」に伴う施設・設備面の整備計画について審議、報告を行った。

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	紀要編集委員会
行動計画	1. 紀要投稿数の増募推進（継続）

1. 紀要投稿数の増募推進（継続）

教員の秋学期の研究成果を紀要に反映させるため令和2年度から継続して、締め切りを11月に設定した。令和3年度から目標件数（総合科学教育科5件、各専門コース3件の合計17件）を廃止し、また、今年度から学会等外部の投稿論文数を増やすという新たな方針を打ち出したため、令和4年度は例年より少なく5件の教育論文・研究論文が集まった。

51高専中おそらく6高専が紀要を廃止し紀要の意義が問われるなかで、調査データを紹介した論文の掲載、査読付き論文につながる初期段階の成果の掲載等、少ない件数でも継続して発行している。

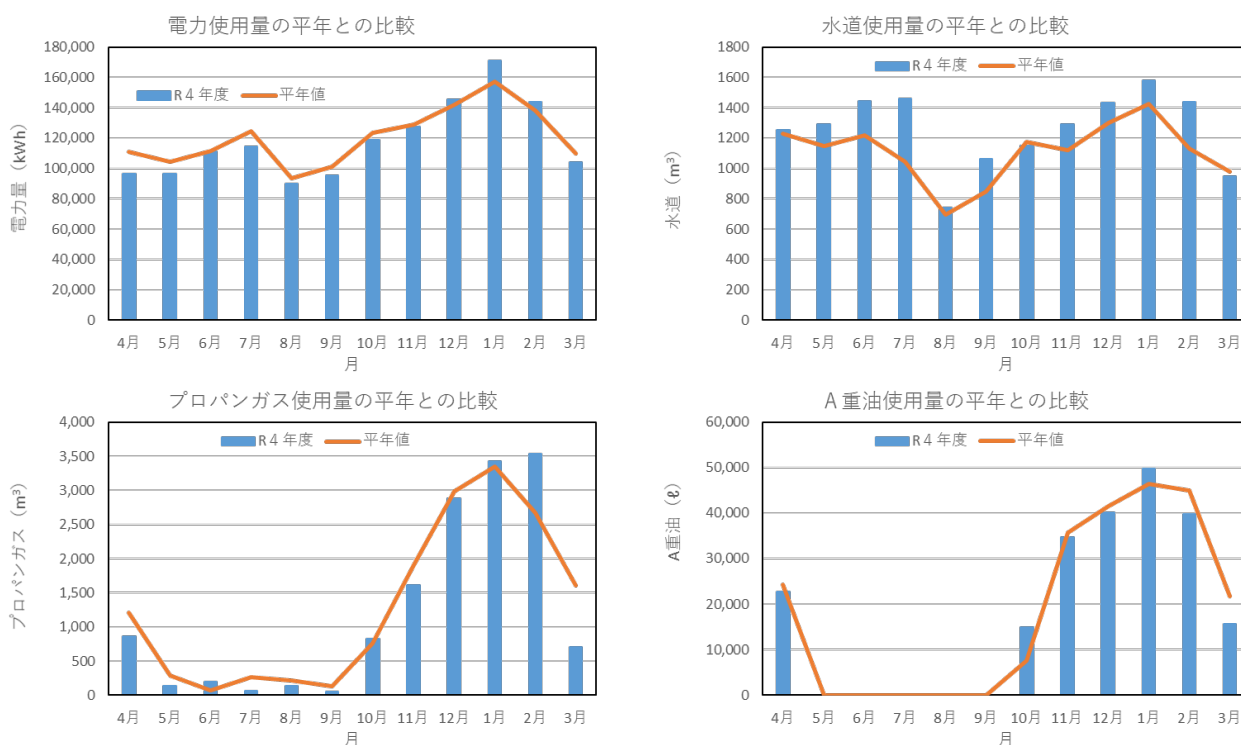
平成29年度より図書館のホームページと併せて科学技術振興機構のJ-stageでも公開しており、令和4年度も引き続き登録、公開している。

—令和4年度 行動計画の取組結果報告書—

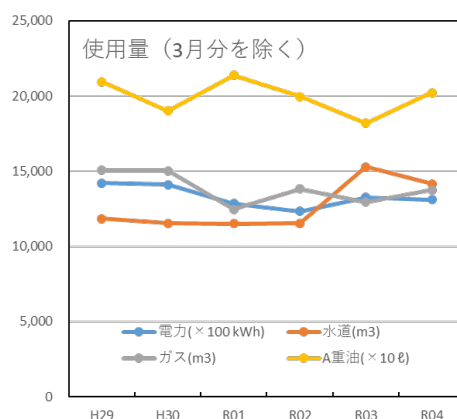
委員会等名称	環境マネジメント委員会
行動計画	1. 環境負荷の少ないキャンパス作り（継続）

環境負荷の少ないキャンパスづくりの取組みの一環として、光熱水量節約の啓蒙を兼ね、電気、水道、プロパンガス、A重油の使用量及び金額を毎月の教員会議で報告することを継続している。また、これらの使用量と気温との関係を知る目的で月別平均温度も報告している。

下のグラフは、令和4年度の月別の使用量を平年値と比較したものである。水道がやや平年を超過しているほかは、おおむね平年と同様の推移を示しており、合計の対平年比は電力98.0%、水道113%、プロパンガス93.4%、A重油98.0%と、水道を除き平年値以下である。



下のグラフは平成29年度から令和4年度までの使用量（3月分を除く）の変化を表している。年度による増減はあるものの、水道を除いて全体的には減少傾向が認められる。



—令和4年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	国際交流センター
行動計画	1. グローバルエンジニア育成に向けた国際交流の推進（継続） 2. 低学年生のタイ人留学生への対応および学内外でのホームステイの基盤づくり（継続） 3. 教職員のグローバル教育（継続） 4. 情報発信の推進（継続）

1. グローバルエンジニア育成に向けた国際交流の推進（継続）

- a. 海外受入・派遣：令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大に対する政府の水際対策の緩和に基づいて高学年生（専攻科生）から海外派遣の再開を行った。フランスの学術協定校である IUT du Littoral Cote d'Opale、IUT Valenciennes で9月から4名の専攻科生が約3か月インターンシップを行った。渡仏前にコロナ感染拡大状況の中での渡仏に対する心得などのブリーフィングをおこない、帰国後インターンシップにおける反省会をおこなった。

低学年生に関しては令和4年度は派遣中止としオンラインによる海外交流プログラムで令和5年度に向けての海外派遣の土台作りに集中した。

グローバルエンジニア育成事業のプログラムの他に、本科3年生3名がオンラインでタイ日サイエンスフェア2022に参加し、自主探究で取り組んだ内容についてオンラインで発表した。

- b. 令和5年度に向けての派遣・受け入れのための計画書申請で以下のものが採択された。

2023年度 JASSO 採択プログラム申請結果一覧

	プログラム番号	プログラム名	プログラム形態	計画区分	申請タイプ/ 申請区分
派遣	HTA2370200101	SDGsの達成に貢献できる人材の育成を目指した国際交流プログラム～シンガポール（テマセクポリテクニク）との国際交流～	短期研修・研究型	一般公募	A
	HTA2370200102	中国文化理解と工学技術習得の研修 — 中国（大連交通大学）への派遣—	短期研修・研究型	一般公募	A
	HTB2370200101	ウディブリッジの耐力コンテストを通じた技術教育研修 — ニュージーランドへの派遣—	短期研修・研究型	一般公募	B
	HTB2370200102	総合的流砂系管理を通じた工学教育研修 — ベトナム（CKT）との国際交流—	短期研修・研究型	一般公募	B
	HTB2370200103	学寮を活用した英語による技術教育研修—フランス技術短期大学（IUT）と東北地区6高専および旭川高専、函館高専、小山高専、長岡高専、岐阜高専との相互交流（派遣）—	短期研修・研究型	一般公募	B
	HTB2370200104	グローバル人材育成を目指した工学教育研修 — ニュージーランド（オタゴポリテクニク）との国際交流—	短期研修・研究型	一般公募	B
受入	UTB2370200101	学寮を活用した英語による技術教育研修—フランス技術短期大学（IUT）と東北地区6高専および旭川高専、函館高専、小山高専、長岡高専、岐阜高専との相互交流（受入）—	短期研修・研究型	一般公募	B

また国費高校生留学促進事業の一環として行われている青森県高校生海外留学促進事業補助金についてはモンゴル、タイ、シンガポール、の短期派遣で申請する予定である。その他に高専生の海外活動支援事業へ申請し、学生の海外渡航費の一部などについて支援金給付に向けて準備を進めた。

- c. 英語教育における外国人講師による英会話プログラムの導入：グローバル実践英語の一環として1年生は英語ネイティブの外国人講師の授業を受け、長期休業期間中に Weblio 英会話のオンラインレッスンを受講した。2～3年生は Native Camp によるオンライン英会話プログラムを授業や夏休み等を活用し、積極的に導入した。日本語の通じないネイティブ講師との英会話を体験することにより、低学年から実践的な英語コミュニケーション力の向上へとつなげた。
- d. 国際自主探究：新型コロナウイルス感染拡大防止のため海外派遣は中止となった。その代わりにモンゴルの協定校の学生と TV 会議システム、SNS、本校のモンゴル人留学生等をとおして国際自主探究におけるデータ収集等を行った。留学生は出身校の学生たちと繋がって国際自主探究を遂行した。またポスター発表会では三沢のエドグレン高校の校長先生の前で積極的に自身の研究について英語でプレゼンテーションを行った。
- 以下は令和4年度の国際自主探究テーマの例である。

	No.	クラス	氏名	テーマ名
1 学 年	1	L1	日本	マリオカートのバナナの皮本当に滑るの？～バナナの皮と潤滑油の滑りの違い～
	2	L2	日本	WEED SAVE THE WORLD～雑草で途上国の手助けを～
	3	L2	日本	「青の街」の色分析
	4	L2	タイ	ココナッツ繊維からの断熱材の開発
	5	L2	タイ	フラッシュカードを使用した脳の活動分析：認知科学の視点から
	6	L2	タイ	ヴィーガンのためのチーズ製造：実用化へ向けて
	7	L3	日本	曲の速さと走る速さとの関係
	8	L3	日本	お茶を使ってマスクの寿命のはばせるのか！
2 学 年	9	C2	日本	コロナがSDGsに与える影響
	10	C2	日本	政治視点から観るジェンダー問題
	11	C2	タイ	紫フィルム：紫キャベツを使用した肉の鮮度を計るバイオフィルムの開発
3 学 年	12	M3	日本	この朝食を食べて！！
	13	M3	インドネシア	汗をかくことなく自動カート
	14	E3	日本	自主探究検索システムが欲しい！！：設計思想編
	15	E3	タイ	Arduino電子工作で二酸化炭素警告センサーを制作
	16	C3	日本	多言語の学習から得られるグローバル化のヒント
	17	C3	日本	牛乳の大量廃棄問題を解決！？～洗濯用牛乳洗剤を作る～
	18	C3	日本	自主探究検索システムが欲しい！！：全文解析編
	19	C3	日本	自主探究検索システムが欲しい！！：分類手法編
	20	C3	日本	チーズは牛乳だけじゃない！？～モンゴルチーズと比較した豆乳の可能性～
	21	C3	ラオス	天然の着色料
	22	Z3	日本	筆記用具の“正しい持ち方”とその合理性 ～グローバルな視点～
	23	Z3	日本	マダガスカルクリーン大作戦：現地の状態と改善法
	24	Z3	日本	来年度からの入寮者のための国際寮の3D化
	25	Z3	日本	マダガスカルクリーン大作戦：日本の河川との比較

e. グローバルエンジニア育成にむけたプログラムの実施

○自主探究にむけての Pre-Training

【日時】 令和5年2月27日(月) 8:30~12:00 L1 / 13:00~16:30 L2

令和5年2月28日(火) 8:30~12:00 L3 / 13:00~16:30 L4

【対象】 本科1年生全員

【実施】 こども国連環境会議推進協会(東京と各自宅オンライン接続にて実施)

【内容】 SDGsを学ぶプログラムにより、相互に関連した17の目標と169のターゲットから成る持続可能な目標を題材に、自主探究に向けた早期課題発見につなげていけるような内容とした。

○未来に繋げる異文化交流プロジェクト

【日時】 令和4年9月7日(水)~9月13日(火) ※各日 13:00~14:30

【対象】 日本人学生(希望者) 18名

【実施】 株式会社 With The World(インドネシア・マレーシア・インド・兵庫・学生の自宅(県外含む)をオンライン接続にて実施)

【内容】 コロナ禍において、国際交流が通常どおりに行われないなか、オンライン上でもやり方次第で可能であることを体験させ、今後も活用していけるよう、その手段と方法を涵養する。それぞれの意見を英語でディスカッションすることにより、国際舞台での活躍に向けて、意識の向上を図ることを目的とする。

○ファシリテーターフォローアップ研修およびファシリテーター養成プログラム

R3年度ファシリテーターフォローアップ研修(参加者3名)

【日時】 令和4年9月21日(水) 8:50~10:20 / 10:30~12:00

R4年度ファシリテーター養成講座(参加者10名)

【日時】 令和4年9月21日(水) 13:00~14:30 / 14:40~16:10

令和4年9月22日(木) 13:00~14:30 / 14:40~16:10

【対象】 希望者(留学生含む) 13名、日本人ファシリテーター3名(R3年度の参加者)

【実施】 株式会社 With The World(オンライン接続にて実施)

【内容】 専門能力や技術力を伴った英語コミュニケーション能力(「KOSEN英語」)を、発展させることに取り組む。本プログラムは、高学年生を対象として、英語によるファシリテーター役を育成するために実施する。

【その他】 ファシリテーターとしての教育を受けた学生が、ファシリテーター役として、ディスカッションの流れをサポートした。

○TOEIC ワークショップ (非常勤講師による)

・TOEIC-IP 試験対策講座(3年生対象)

【日時】 令和5年3月6日(月)~3月30日(木)(左記のうち17日間)

①8:50~10:20 / ②10:30~12:00 / ③8:50~10:50(確認テスト)

○TOEIC 講演会

- ・工学系学生のための TOEIC L&R 得点アップ講座

【日時】 令和5年2月28日(火) 13:00~14:30

【対象者】 本科3・4年生希望者

【講師】 (株) ビズコム

【内容】 英語が苦手な工学系学生の英語学習意欲向上を図ることを目的とし、英語で「読む・聴く・話す・書く」をバランスよく伸ばすトレーニングのポイントを紹介した。さらに、TOEICの出題傾向と対策法を把握し、問題を解く練習をした。これから TOEIC を受験する学生にとって、得点アップにつながる内容とした。

○英検ワークショップ

- ・英検1次試験対策指導

2年生対象の個人指導。4月中旬~5月中旬) 約20名

- ・夏休みオンライン勉強会

2年生対象 5名

- ・英検2次面接対策指導

全学年、2級・準2級対象で指導。約30名

各回の約1週間前から、放課後に希望者を対象に個別指導。GLC 教員、留学生が対応。

- ・冬学期中の対策

集中英語演習 I に英検対策問題集に使い、一次・二次対策を授業で行う。

準2級未取得の1年生対象 約80名

- ・英検準2級未取得者(2年生)の補講と試験

リスニング・筆記・面接 12月~2月 10名

90分全体授業~5回、100分試験~一回、面接~各自合格するまで。

○英語力向上の必要な学生への個別指導

例年年度初めに行われる英語実力試験において、点数が低かった学生を対象にグローバルラーニングセンターにおいて英語のサポート指導を行った。

○学生主導の TOEIC 学習会(新)

TOEIC-IP 試験スコア 900 点以上だった4年生2名が、本科3・4年生対象に TOEIC 対策学習会を行った。勉強法のアドバイス、英単語の覚え方や、わからない問題の解説など学生目線で参加者学生の個々の悩みに対応した。

2. 低学年生のタイ人留学生への対応および学内外でのホームステイの基盤づくり(継続)

- a. 低学年生のタイ人留学生への対応：タイ王国プリンセスチュラポーンハイスクール(PCSHS) 事業

- i) 学習面・生活面:

- 1 学年生(4名)は入学後スムーズにクラス・授業になじめるように日本語・科学や数学などの基礎用語を本校の教員の指導および先輩留学生のサポートのもとで来日前にオンラインで学習した。その結果クラス・授業にも比較的早く馴染むことができた。
- メンター制度やチューター制度を使い、学業・生活面を日本人学生がサポートした。
- 定期的に国際交流センター委員が留学生の成績・生活面談を行った。
- カウンセリングの設置：新型コロナウイルス感染拡大防止のため保健室・学校医と連携してカウンセリングの機会を設けた(日本語)。また、在京タイ大使館とも連携して日本語のカウンセリングセッションの間 LINE で日本語とタイ語で行えるようにした。
- オリエンテーション・トレーニングの実施：タイからの新入生や JASSO からの編入生に対して八戸到着後に学校におけるオリエンテーションをおこなった。また留学生全体に対して新型コロナウイルス感染拡大に関連して衛生トレーニング、生活における諸注意や長期休みの過ごし方などのガイダンスを行った。
- コロナ禍における学校のイベント：基本的に小規模な形(3~4人程度)での気分転換の場・機会を設けた(例：教員と三密を避けた食事や学内運動場の活用、授業の一環で社会見学等)。また、日本人のクラスメイト・友人宅に1泊2日のショートホームステイで日本文化を体験した。さらに、秋には留学生と日本人学生合わせて総勢29名(引率2名)で、日帰りバス遠足を実施した。R4年度は、留学生側のリクエストも踏まえて岩手県北沿岸部の久慈の琥珀博物館、北山崎の展望台、岩泉の龍泉洞を巡った。留学生と日本人学生が交流・リフレッシュできる時間を作った。

ii) R5年度に向けた新規入学生において

令和4年度は PCSHS の 1st selection camp は本校の理数系の教員2名が現地で理数系の日本語および来日した時のことを想定した入寮後の生活習慣などをシミュレーション紹介した。教員両名は国際交流センター委員であり、また新規入学生の担任およびサポート教員であったため新規入学生もこのキャンプで対面し、安心したようであった。

b. 学内外のホームステイの基盤づくり

令和3年度は長期休業期間中の留学生のホームステイ受け入れについて、近隣の自治体(田子町)に相談し受け入れに向けて調整を進めていた。令和4年度は初めての試みでタイのチュラポーンサイエンスハイスクールの本科1年生4名が日本の夏休みを田子町で過ごした。花火、せんべい焼きやドローン体験などのイベントにも参加し、学校以外で青森の生活を体験し夏休みを満喫した。

3. 教職員のグローバル教育(継続)

- a. 本校教職員を対象としたオンライン英会話(Native Camp)を設け、15名が参加した。
- b. 過去2年間コロナ感染拡大のため中止となっていた青森県留学生交流ジャンボリーが再開され、令和4年度は本校が主幹校となり、12月上旬に実施した。本校の事務職員が主導となって企画し、八戸・縄文文化をモチーフに是川縄文館の見学や勾玉づくりの体験学習を行った。本校の学生も含め県内の38名の留学生が参加し、交流を深めた。

4. 情報発信の推進（継続）

- タイのチュラポーンサイエンスハイスクールのオンラインサマープログラムにおいて留学生の本校での生活について紹介動画を作成し、配信した。また、本校に在籍するタイ人留学生にタイ語翻訳してもらい、学校生活について具体的に説明した。グローバルエンジニア育成事業や国際交流センターで実施したプロジェクトや講座、国際自主探究の様子をホームページに掲載した。
- 学校紹介 DVD 国際交流センター紹介の更新

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	知的財産委員会
行動計画	1. 知的財産戦略の普及啓発（継続）

1. 委員会等

(1) 第1回八戸工業高等専門学校知的財産委員会

日時：令和4年7月11日（月）

会場：LAN 会議

事項：発明評価書の作成について

出席者：委員長・委員

(2) 第2回八戸工業高等専門学校知的財産委員会

日時：令和4年8月5日（金）

会場：LAN 会議

事項：特許の審査請求について

出席者：委員長・委員

(3) 第3回八戸工業高等専門学校知的財産委員会

日時：令和4年8月18日（木）

会場：LAN 会議

事項：発明届の承継について

出席者：委員長・委員

(4) 第4回八戸工業高等専門学校知的財産委員会

日時：令和4年9月14日（水）

会場：LAN 会議

事項：特許の優先権主張出願について

出席者：委員長・委員

(5) 第5回八戸工業高等専門学校知的財産委員会

日時：令和4年9月27日（火）

会場：LAN 会議

事項：特許権の維持について

出席者：委員長・委員

(6) 第6回八戸工業高等専門学校知的財産委員会

日時：令和4年10月28日（金）

会場：LAN 会議

事項：特許の出願維持について

出席者：委員長・委員

(7) 第7回八戸工業高等専門学校知的財産委員会

日時：令和4年11月30日（水）

会場：LAN 会議

事項：特許の外国出願について

出席者：委員長・委員

(8) 第8回八戸工業高等専門学校知的財産委員会

日時：令和5年2月10日（金）

会場：LAN 会議

事項：特許権利登録維持について

出席者：委員長・委員

(9) 第9回八戸工業高等専門学校知的財産委員会

日時：令和5年3月2日（木）

会場：LAN 会議

事項：発明評価書の作成及び発明届の承継について

出席者：委員長・委員

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	広報委員会
行動計画	1. キャンパスガイド等の内容充実（継続） 2. 八戸高専ホームページの内容の更新と充実（継続） 3. 本校公式 Twitter の更新と運用

1. キャンパスガイド等の内容充実（継続）

カレッジガイドにおいて、本校の取り組みのページを新たに2ページ増やし、STEAM教育、グローバルエンジニア育成事業、混住型国際寮に関する説明をまとめて記載した。また、就職・進学の記事や挿入写真など、最新の情報に更新した。さらに、令和5年度入学者募集のページについて大幅に変更した。全体的にデザインを変更し、より分かりやすく親しみやすいようにした。

2. 八戸高専ホームページの内容の更新と充実（継続）

新聞等掲載記事（新聞、テレビ・ラジオ、刊行物で計90件）の増加に伴い、新着情報の更新を多くし、ホームページからの情報発信を強化した。令和4年度は、本校HP新着情報へ約160件の記事を掲載した。

快適にアクセスできるように、また、セキュリティ強化のため、本校Webサーバーを11月下旬に学外へ移行した。学生会と連携し、本校ホームページの記事作成に協力いただくことで、学生の活動を発信するための仕組みを構築した。11月から運用を開始し、7件の記事を書いてもらった。一方、ホームページデザインについては、CSSフレームワークである「Bootstrap」のバージョンを3から5にアップデートし、デフォルトの画面サイズを1400ピクセル（Bootstrap5の基本仕様）に拡大した。また、画面サイズに合わせてホームページのレイアウトを自動で変更するレスポンシブWebデザインを導入するなど、スマートフォン等でも見やすいホームページとなった。

3. 本校公式 Twitter の更新と運用

広報委員会内のWebページ改善ワーキンググループが中心になって、本校HPの中からインパクトが強いと思われるもの、学校やコースの紹介動画などをPRするために、SNSの運用を本格的に開始している。今年度は約85件の記事の更新を行った。

—令和4年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	総合情報センター委員会
行動計画	1. 学内ネットワーク更新への対応 2. 学内サービス基盤更新への対応 3. 教育用計算機更新への対応 4. 情報セキュリティ対策の充実（継続）

1. 学内ネットワーク更新への対応

機構予算により学内ネットワーク機器の更新が令和4年10月上旬に行われた。また、高専共通認証システムがUnifIDoneからAXIOLEに変更となったことを受け、教育用計算機システムなど他の認証システムの変更作業を行った。高専統一ネットワークで以前使用していた一部の機器及びライセンスの買取を行い継続利用することで、ネットワークの安定運用を実現した。

2. 学内サービス基盤更新への対応

今年度中に実施の予定であったが、半導体不足によりサーバが入手できないなどの理由により、現行システムを1年間延長して使用することにした。来年度早期に仕様書を完成させ、導入を急ぎたい。

3. 教育用計算機更新への対応

令和3年度に実施予定であったが、半導体不足の影響により1年間延期し、今年度実施した。年度初めから早めの対応を行い、予定通りに令和5年2月20日～3月17日に実施した。第1パソコン室、第2パソコン室、図書館に加えて、MコースのCAD室も同じソフトウェア環境としたため、全学的に使い勝手が良くなった。新PCの導入により、教育活動を快適に実施できる環境が整備された。

4. 情報セキュリティ対策の充実（継続）

(1) パスワード変更に対する対応

高専共通認証システムUnifIDoneのパスワードの有効期限は400日で設定されている。このため、教務・厚生補導両委員会と連携の上、教育研究支援センター職員の協力を得て、年度初めに学生のパスワード変更を行った。なお、年度初めにパスワードの変更ができなかった学生に対しては、担任を通じてフォローを行った。

また、機構のパスワードポリシーの改定に伴い、以下を行った。

- ・パスワード文字数を16文字以上へ変更する。
- ・新たなパスワードの認証システムAXIOLEを用いて変更作業を実施する。
- ・MS365のパスワードも自動的に変更する。

(2) マルウェア対策ソフトウェアの更新

現在利用しているマルウェア対策ソフトウェアが令和5年4月で製品サポートが終了することを受けて、令和5年3月末までに新たなソフトウェアを業務用PCへインストールするように全教職員へ周知し、依頼を行った。

(3) 新メールサーバへの更新

電子メールサーバの老朽化に伴い、令和5年1月下旬に更新作業を実施した。これにより、セキュリティを向上させることができた。

(4) 情報セキュリティに関する規則の見直し

「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群」に基づき、本校のサイバーセキュリティポリシー対策規則等の見直しを行った。

(5) 令和4年度情報セキュリティ監査への対応

令和4年12月5日～7日に情報セキュリティ監査を受けた。

前回指摘事項であった、ネットワーク管理室およびサーバ室への電子錠の設置を行った。また、関係規則の見直し、八戸高専校内LAN利用ガイド等の更新を行った。89の項目について監査を実施し、指摘事項が5件となった。

3件については対応済みである。残り2件については対応中である。

(6) 情報システム台帳の整備

インシデント発生時のコンピュータ機器等の特定を速やかに行うため、情報システム台帳、サーバ台帳、クライアント台帳を作成し、機構へ提出した。

(7) 情報セキュリティ教育の実施

情報セキュリティに対する意識の向上を図るため、4月に新任教職員に対して研修会を初めて行った。また、全教職員に対しては、情報セキュリティインシデントの予防及び被害拡大を防ぐため、情報セキュリティ教育(2回)及びインシデント対応訓練(2回)を実施した。第2回標的型メール対応訓練では、メール開封率が3.3%とかなり低く、報告率は100%を達成した。このことから、本校教職員のセキュリティマインドが根付いているものと判断できる。

インシデント発生時の初期対応の手引き「ウィルスに感染!?!と思ったら【すぐやる三箇条】」の連絡先を更新し、年度当初に周知を行った。また、高専機構から提供される情報セキュリティ、脆弱性対策情報に関しては、社内メールで注意喚起を継続して行った。

(8) 各種研修会等への参加

以下の研修会等に参加し、職務遂行に必要な知識の修得とともに、資質の向上を図った。

- ・機構主催の情報戦略に関する情報共有と意見交換会(年5回)
- ・機構主催の情報セキュリティトップセミナー(年2回)
- ・令和4年度IT人材育成研修会(令和4年10月11日～12日)
- ・令和4年度国立高等専門学校機構情報担当者研修会(令和4年12月13日)
- ・文科省関係機関におけるVPN脆弱性対策・セキュリティ対策にかかるセミナー(令和4年12月27日)
- ・TOPIC総会・講演会(令和4年4月27日～28日)

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	図書館委員会
行動計画	1. 交流室の積極的な活用について(継続) 2. 読書習慣を身につけさせるための各種行事の充実(継続) 3. 蔵書点検の実施(継続) 4. 資格試験コーナーの充実(継続)

1. 交流室の積極的な活用について(継続)

交流室の活用に関して、令和4年度は授業等で約360時間、1ヶ月平均30時間の予約が入った。予約外の他の使用目的は、各種会議や学生のサークル活動、ワークショップなどである。また、メンターメンティ制度の活動の場所、自学自習のスペースとしても使用されている。

2. 読書習慣を身につけさせるための各種行事の充実(継続)

学生会図書委員会の主な行事として、ブックハンティング、ニューズレター発行がある。ブックハンティングは、7月4日(月)に八戸ブックセンターで実施した。学生会図書委員を中心に学生が参加し、自然科学、数学、小説などに関する図書37冊を選書した。ブックハンティングで選書した図書のコーナーを設置し、さらに関心をもってもらうためにポップを作成し、展示した。また、学生会図書委員会が中心となってニューズレターを2回発行し、教員や学生が本の紹介を行い展示した。教室に掲示、本校ホームページにも掲載した。

八戸ブックセンターとの連携企画「ひと棚選書」で本校教員が推薦した書籍の一部を、図書館内に特設コーナーを設けて展示している。

令和4年6月に株式会社青森銀行様より建築関係図書87冊をご寄贈いただいた。図書館内に特設コーナーを設けて展示している。

令和5年1月に八戸高専同窓会様から学生図書購入費として寄附をいただいた。来年度、この寄附を活用し、工学等に関する図書の充実を図る予定である。

新・統合図書館システムにおいて、令和5年度より学生が自宅で図書の予約等が可能となり、図書館利用の利便性が向上する。

3. 蔵書点検の実施(継続)

令和4年度は、教員研究室8ヵ所の蔵書点検を実施した。所在不明の図書の追跡調査を行い、図書情報の効率的な整理・更新が可能となった。

4. 資格試験コーナーの充実(継続)

令和4年5月から図書館内に新たに就職コーナーを開設した。このコーナーでは、就活時に必須となる適性検査や面接などに関する書籍を取り揃えた。また、キャリア教育・学習支援センターが中心となって、学生からのニーズの高い資格参考書を100冊購入し、蔵書を充実させた。さらに、利用率の高い本や、単位認定されている資格の中で発行から経年している資格参考書を更新した。このような取り組みにより、コロナ禍で外部の方の入館を制限せざるを得ない期間があったにも関わらず、資格試験の書籍を含め約4,300冊の書籍の貸出数となった。

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	地域テクノセンター
行動計画	1. 産学官金民連携の推進（継続） 2. 共同研究の推進（継続） 3. 地域への貢献（継続）

1. 産学官金民連携の推進

1.1 官との連携事業の実施

(1) 八戸市企業誘致促進協議会

日 時：令和4年5月9日（月）
幹事会 16：00～16：30
総 会 16：30～17：00

場 所：八戸パークホテル

出 席 者：地域テクノセンター長

(2) 第1回八戸水産アカデミー

日 時：令和4年5月24日（火） 15：30～

場 所：八戸市水産会館 2階大研修室

出 席 者：校長、地域テクノセンター長、副地域テクノセンター長

(3) 令和4年度（公）21あおもり産業総合支援センター第2回理事会

日 時：令和4年5月31日（火）15：00～

場 所：青森市内ホテル（アラスカ）

出 席 者：地域テクノセンター長

(4) 経済産業省東北経済産業局 東北半導体・エレクトロニクスデザイン研究会

日 時：令和4年7月4日（月） 15：00～17：30

場 所：オンライン開催

出 席 者：地域テクノセンター長

(5) (独) 青森県産業技術センター八戸工業研究所協議会 第44回定時総会・フォーラム

日 時：令和4年7月7日（木） 15：00～16：30

場 所：八戸プラザホテル

出 席 者：地域テクノセンターコーディネーター

(6) 令和4年度第1回八戸産学官連携推進会議事務局会議

日 時：令和4年7月19日（火） 10：00～

場 所：八戸市庁本館

出 席 者：地域テクノセンター長

(7) 第2回八戸水産アカデミー

日 時：令和4年8月22日（月） 14：00～16：00
場 所：八戸市水産会館 2階大研修室
出 席 者：校長、地域テクノセンター長、副地域テクノセンター長

(8) 東北半導体・エレクトロニクスデザイン研究会 W. G.

日 時：令和4年9月13日（火） 13：00～17：00
場 所：オンライン開催
出 席 者：地域テクノセンター長

(9) 令和4年度第2回産学官連携推進会議

日 時：令和4年9月21日（水） 14：00～
場 所：八戸市庁本館
出 席 者：地域テクノセンター長

(10) 令和4年度第1回八戸産学官連携推進会議

日 時：令和4年10月7日（金） 14：00～15：00
場 所：八戸市庁本館
出 席 者：校長、地域テクノセンター長

(11) 令和4年度第1回八戸産学官連携推進会議 「八戸地域学」第1回講義

日 時：令和4年10月24日（月） 15：30～17：00
場 所：八戸ポータルミュージアム はっち
出 席 者：校長、地域テクノセンター長

(12) 第4回八戸水産アカデミー

日 時：令和5年2月14日（火） 14：00～15：30
場 所：八戸市水産会館2階大研修室
出 席 者：地域テクノセンター長、地域テクノ副センター長

(13) 令和4年度（公）21 あおもり産業総合支援センター第4回理事会

日 時：令和5年3月24日（金） 10：30～12：00
場 所：青森県共同ビル1階会議室
出 席 者：地域テクノセンター長

1.2 民との連携事業の実施

(1) 令和4年度「八戸工業高等専門学校キャリア教育プログラム」企業内容説明会

本校学生に対するキャリア教育の一環として、企業の事業内容を紹介する場を提供し、学生

に将来の職業観や勤労観を涵養させることを目的として、本校産業技術振興会会員企業対象の企業内容説明会を Online 形式で開催

日 時：令和 5 年 3 月 1 日（水）9：00～16：00

場 所：オンライン開催

参 加 者：本科 3 年生、4 年生、専攻科 1 年生、企業 154 社

1.3 学学連携の実施

(1) KOSEN EXPO 2022 (コウセン エキスポ)

日 時：令和 4 年 10 月 24 日（月）～28 日（金）

開催方法：オンライン開催

参 加 者：発表教員、発表学生

(2) 令和 4 年度第一ブロック研究推進ボード会議（第 2 回）

日 時：令和 4 年 11 月 8 日（火） 10：00～12：00

開催方法：オンライン開催併用による会議

出 席 者：地域テクノセンター長

(3) 東北工学教育協会高専部会主催 令和 4 年度「産学交流の日」

日 時：令和 4 年 11 月 24 日（木）～25 日（金） 両日とも 12：00～13：30

開催方法：オンライン開催

出 席 者：地域テクノセンター長

(4) 令和 4 年度北東北地区大学高専交流会

日 時：令和 4 年 12 月 2 日（金） 13：00～17：00

場 所：岩手大学

出 席 者：校長、地域テクノセンター長、発表学生及び引率教員、事務部

(5) KOSEN EXPO 2022 ファンミーティング

日 時：令和 4 年 12 月 13 日（火） 10：00～17：00

場 所：一橋講堂 中会議場

参 加 者：KOSEN EXPO 2022 発表学生、引率教員

(6) 令和 4 年度第一ブロック研究推進ボード会議（第 3 回）

日 時：令和 5 年 2 月 22 日（水） 10：30～12：00

場 所：オンライン開催会議

出 席 者：地域テクノセンター長

1.4 学官連携の実施

(1) 令和4年度青森創生人財育成・定着推進協議会

日 時：令和4年7月7日（木） 14：00～

場 所：青森市アラスカ会館

出席者：校長

(2) 令和4年度青森創生人財育成・定着推進協議会 第1回産官学情報交換会

日 時：令和4年7月26日（火） 10：00～11：30

場 所：オンライン開催

出席者：地域テクノセンター長

(3) 令和4年度東北地域リエゾンネットワーク会議

日 時：令和4年10月28日（金） 14：00～17：00

場 所：東北経済産業局内会議室（仙台市）

出席者：地域テクノセンターコーディネーター

(4) 令和4年度青森創生人財育成・定着推進協議会 第2回産官学情報交換会

日 時：令和5年2月28日（火） 13：30～15：00

場 所：アスパム（青森市）

出席者：地域テクノセンター長

(5) 令和4年度 青森創生人材育成・定着推進協議会 八戸ブロック会議

日 時：令和5年3月13日（月） 11：00～12：00

場 所：オンライン開催

出席者：地域テクノセンター長、副地域テクノセンター長、事務部

2. 共同研究の推進

2.1 地域企業や他機関等との共同研究

(1) 令和4年度の地域との共同研究は次表のとおりである。

表1 研究担当者および研究題目

研究担当者	研究題目
校長 圓山 重直	高速度表面温度センサーとダブル熱パルスレーダーの開発
マテリアル・バイオ工学コース 准教授 新井 宏忠	液液界面における物質移動特性の解明
マテリアル・バイオ工学コース 教授 長谷川 章	耐熱性 γ -アルミナの各種触媒への応用およびバイオマス前処理手法の検討
マテリアル・バイオ工学コース 教授 長谷川 章 助教 小船 茉理奈	耐熱性 γ -アルミナの各種触媒への応用およびバイオマス前処理手法の検討

マテリアル・バイオ工学コース 准教授 山本 歩	三内丸山、亀ヶ岡、是川遺跡内の縄文地層から分離した酵母の醸造特性についての研究
マテリアル・バイオ工学コース 准教授 本間 哲雄	亜臨界技術によるプラスチックのケミカルリサイクル
校長 圓山 重直	超高精度多点温度校正したサーミスタと高精度定抵抗体を利用し、高い信頼性が保証されたセンサの商品化をする。
マテリアル・バイオ工学コース 准教授 本間 哲雄	水熱分解法による DBP の分解に関する研究(2022 年度)
機械・医工学コース 助教 田口 恭輔	「高専-長岡技科大 共同研究」超音波振動援用ドリル加工時における加工速度の多段化が工具および被削材に及ぼす影響
機械・医工学コース 准教授 古川 琢磨	サウナ繰り返し入浴におけるヒートショック予防法の科学的提言

(2) 令和4年度の受託研究は次表のとおりである。

表2 研究担当者および研究題目

研究担当者	研究題目
環境都市・建築デザインコース 教授 丸岡 晃	マリカルチャビッグデータの分析
環境都市・建築デザインコース 教授 庭瀬 一仁	県外最終処分を実現させるための技術システムの開発研究 (サブテーマ：県外最終処分施設に求められる封じ込め性能に関する研究)
マテリアル・バイオ工学コース 准教授 本間 哲雄	触媒水熱分解法による DBP 分解検討および錯体等の計算化学的評価 (2022 年度)

3. 地域への貢献

(1) 令和4年度八戸工業高等専門学校産業技術振興会事業

日 時：令和4年7月8日(金) 16:00~18:00

場 所：八戸グランドホテル

内 容：役員会 「令和3年度行事報告、令和4年度行事承認」

定時総会「令和3年度行事報告、令和4年度行事承認」

特別講演「地元(八戸)で起業して35年、これまでの取組みとこれから」

(2) その他

第8回八戸高専まちなか文化祭及びライフ研究成果発表

日 時：令和4年12月17日(土) 10:30~15:00

場 所：八戸ポータルミュージアム はっち

参 加 者：八戸高専学生、教職員

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	地域文化研究センター
行動計画	1. 校内および地域における教養教育活動の推進

1. 近年は、本センターの活動状況が低調であったため、地域文化研究センターを廃止して、予算と活動を地域テクノセンターに移行させることを提案し、運営委員会で承認された。令和5年度からは、地域に関する研究活動は地域テクノセンターの活動として行っており、その際に必要となる予算は地域テクノセンターに移された予算を使うこととなった。

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	廃水処理施設管理運営委員会
行動計画	1. 廃水処理についての認識の強化 2. 廃水処理施設設備の更新

1. 廃水処理についての認識の強化

(1) 教職員への啓蒙活動

全教員に対して、排水への固形ゴミ流入の禁止、実験室廃水系の確認、実験廃液処理の手続き、水銀の排出禁止について説明し、ご協力をお願いした。さらに、「廃水処理の手引き」をガレーンに掲載し、廃水処理についての認識強化に努めた。

(2) 学生への啓蒙活動

年度開始時の教員会議にて、廃水への固形ゴミ流入禁止、廃水処理施設の重要性について、学生への周知を依頼した。

2. 廃水処理施設機器の更新

今年度、廃水処理施設は大きなトラブルなく運転できた。しかし、各種設備の老朽化が進んでいるため、全面的な更新が必要である。

—令和4年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	相談室
行動計画	1. 学生支援・合理的配慮体制の整備の推進 2. 要支援学生の把握とフォロー 3. 学生支援の連携体制について

1. 学生支援・合理的配慮体制の整備の推進

①今年度もカウンセリング活動は面談日を基本的に週2回として継続して行った。水曜日に、カウンセラー（医師）、カウンセラー（臨床心理士）、火・金曜日にカウンセラー（臨床心理士）、火・水曜日に、カウンセラー（公認心理師）が担当した。またスクールソーシャルワーカー（SSW）が週3回（3時間/日）来校して学生の抱える問題や外部機関との連携等に対応するほか、定常の時間外にも後述する障害のある学生に対する合理的配慮に関して、保護者や医療機関と連携や、授業に付き添ってのサポートを実施した。

②前年度から引き続き合理的配慮の対応に注力してきた。

養護学校校長経験者で大学や自治体の障害支援アドバイザーも務める千葉隆史先生が引き続き本校の障害支援担当教員（非常勤）として原則週1回来校し、合理的配慮対象学生を中心にその情報を整理しつつ相談室やクラス担任の教員に常時助言している。学校全体での取り組みとしてはまだ端緒についたばかりで試行錯誤が続くが、担任教員と連携しながらの対応にも徐々に慣れつつある。

③研修を通じた情報収集は、コロナ禍が続く中、徐々に対面で行われるものも増えてきた。東北地区学生相談室連絡協議会が11月17日（木）～18日（金）に仙台高専名取キャンパスで開催され、室長と看護師が参加した、11月29日（火）には東京での文部科学省「いじめの防止等に関する普及啓発協議会」に室長が参加した。なお9月14日（水）～15日（木）高専機構「第19回全国国立高専学生支援担当教職員研修」にはコロナ禍での参加人数制限により学生主事・寮務主事のみ参加となったが、相談室として重要な内容だったためその後オンライン配信されたものを相談員全員視聴することとした。

2. 要支援学生の把握とフォロー

今年度、要支援学生を把握するため以下の調査等を実施した。

- ・メンタルヘルス調査である「学校適応感尺度調査」（Forms 回答）を全学生対象に6月および12月に実施した。
- ・保健室長が中心となって「生活チェックシート」による調査（本科1～3年）を6月および1月に実施し、また10月にこれをもとにクラス担任がふりかえりのワークショップを実施した。
- ・以上とは別に、いじめ対策委員会企画調整部会として「いじめアンケート」を年4回実施し、この集計・分析を相談室で担っている。

以上の個別の調査結果をもとに、担任、相談員、看護師、スクールソーシャルワーカー、保健室長が連携して要支援学生の把握に努めるほか、「学校適応感尺度調査」と「生活チェックシート」を重ね合わせ、また「いじめアンケート」の回答の経時変化を分析するなど、注意深く学生の問題の把握に努めようとしている。

6月に全1年生を対象に「話してみよう1分間」を再開させた。相談員（教員）が分担して全1年生を短時間（実際には5分間）の面談を実施し、相談室の敷居を下げる目的がある。

また、日常的には保健室に来室してくる学生のうち、看護師が気がかりに思う学生の情報を毎月定例の相談室運営委員会の折に情報共有し、日常的留意している。

合理的配慮に関しては、翌年度の配慮を要する新入学生の把握と対応のため、入学選抜合格発表の後、各中学校に配慮や支援を要する生徒について問合せ、回答のあった中学校と詳細な情報交換を行い、必要に応じて合理的配慮対象候補として新1学年担任と協力し、入学手続き日に本人・保護者と面接を行った。

3. 学生支援の連携体制について

1-②に関連して、合理的配慮については令和3年度より概ね高専機構のガイドラインに従って態勢整備を進めてきたが、これまでの経験をふまえてR4年度内に「八戸工業高等専門学校合理的配慮検討委員会規程」(R5.1.16)が制定された。合理的配慮検討委員会は学生主事を委員長に三主事を含む全学的な組織であるが、その下に編成される実働組織としての「コアサポートチーム」は、相談室関係者および専門家であるアドバイザー（障害支援担当教員、SSW、SC等）がクラス担任や三委員会等と連携しつつ対象学生の支援にあたる体制となっている。

合理的配慮についてはもちろん相談室としてのみならず、教務・厚生補導・寮務の3委員会およびクラス担任、各科・コース長、授業担当教員、および学生課を中心とする事務部との連携が不可欠であり、また生涯支援担当教員やSSW・SCさらに外部の専門家や機関の協力が必要とされる課題である。支援を要する学生のケーススタディを重ねつつ、他高専や大学等の学生支援体制について情報を収集し、専門家の助言を得ながら、弾力的にケース会議を重ね、学生・保護者との信頼関係を構築する経験値を積み重ねている。これを（仮）学生支援センターとしての仕組みに繋げていくことが今後の課題である。

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	危機管理関係
行動計画	1. 新型コロナウイルス感染症への対応（継続） 2. 緊急時の情報伝達および安否確認方法の改善（継続） 3. 学内におけるリスクの調査（継続）

1. 新型コロナウイルス感染症への対応

1-1 新型コロナウイルス感染症への対応全般について

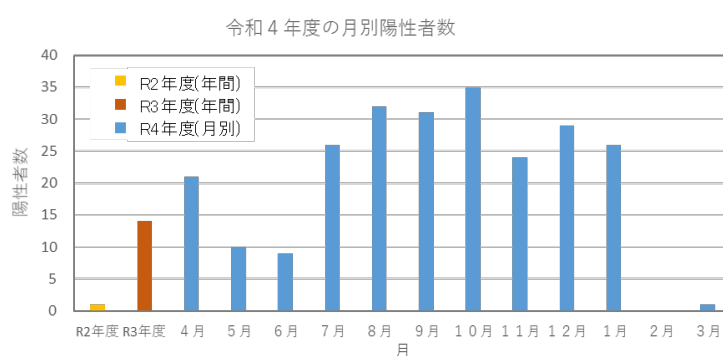
新型コロナウイルス感染症の流行が始まって3年目となる令和4年度は、オミクロン株の影響と思われる前年度末からの第6波が続く中で始まり、夏の第7波、秋から冬の第8波と、2度の全国的な感染拡大に見舞われた。特に感染者数は第5波までに比べて急激に増加した。これを受けて政府は感染者や濃厚接触者の待機期間の短縮、感染者の全数把握の見直しなどを行った。本校では、これらの変更に対応しつつ、地域や校内での感染状況を踏まえながら八戸市保健所と連携して様々な対応を行った。

新型コロナウイルス感染症に対する本校の基本的な対応は前年度と同様とした。すなわち、学生自身や家族が陽性になったり体調不良になった場合には、学生から各種様式に入力することで学校へ連絡してもらい、少数のコロナ担当者と看護師が電話またはメール等で直接本人から状況を聞き取り、必要な対応等を指示した。この方法では、単に陽性者等の人数を把握するだけでなく、学生の行動履歴などを聞き取るうちに濃厚接触者などに関する情報を引き出すことができ、迅速に手を打つことで校内での感染拡大防止に生かすことができる。また自分が陽性や濃厚接触者になって困惑し不安になっている学生から、自宅療養中に就職活動やライブ配信、課題提出などで困ることが無いかを聞き出してきめ細かくサポートすることで、学生が安心して自宅療養・待機できるなどの利点がある。一方で、コロナ担当者はこれらの聞き取りや、そこから派生した濃厚接触者への連絡などを行うために多大な労力が必要になる。令和4年度はできるだけこの形の対応を維持するよう努めながら、感染者の増加に適応できるよう見直しを行った。

1-2 本校の陽性者発生状況と緊急対応等について

(1) 本校における陽性者の発生状況

本校における陽性者数の推移を下図に示す。令和4年度は急激に増加した。4月は前年度からの第6波の影響が見られ、6月には校内体育大会関連、7月は東北地区高専体育大会関連、8月は全国高専体育大会関連、9月は夏季休業による移動、10月は校内球技大会と内定式関連の県外移動などの要因が含まれているが、多くは家庭内での感染とみられる。



(2) 緊急対応等

前項で述べた通り、令和4年度は本校内でも陽性者数が急増した。多くは家庭内での接触によるものと判断されたが、他者を感染させる可能性のある期間に登校していたり、課外活動や学校行事等を通じて感染が拡大したと思われる事例もあった。この中で、特定のクラス内あるいは学校全体での感染急拡大が懸念される事態となった場合には、クラス単位や学校全体で、一定期間の自宅待機や一斉遠隔授業を実施するなどの緊急対応を行った。

○ 学校全体での自宅待機・一斉遠隔授業

令和4年度は、下記の3回にわたって全校自宅待機・一斉遠隔授業の措置をとった。

① 4月15日(金)～4月24日(日)

4月12日(火)から14日(木)までの3日間に学年・コースを跨いで陽性者が発生したため実施。

- ・4月15日(金) 臨時休校
- ・4月18日(月)～22日(金) 遠隔授業
- ・4月15日(金)～24日(日) 臨時学寮閉鎖(4月24日(日)帰寮)
- ・4月15日(金)～5月8日(日) 課外活動禁止

② 7月5日(火)～7月10日(日)

6月21日(火)の校内体育大会および7月1日(金)～3日(日)の東北地区高専体育大会の関連で複数コースにまたがる陽性者が発生し、さらに別の学年での陽性者や濃厚接触者も発生したため実施。

- ・7月5日(火) 臨時休校
- ・7月6日(水)～8日(金) 遠隔授業
- ・7月5日(火)～9日(土) 臨時学寮閉鎖(7月10日(日)帰寮)
- ・7月5日(火)～10日(日) 課外活動禁止

③ 10月4日(火)～10月10日(月)

9月30日(金)に実施した校内球技大会での接触が原因と思われる陽性者が、学年やコースを跨いで発生し、体調不良者も多数発生したため実施。

- ・10月4日(火) 臨時休校
- ・10月5日(水)～7日(金) 遠隔授業
- ・10月4日(火)～9日(日) 臨時学寮閉鎖(10月10日(月)帰寮)

○ クラス単位での自宅待機・一斉遠隔授業

陽性者が発生して感染力を持つ状態で登校した可能性がある場合で、同じクラス内に他にも陽性者や体調不良者が発生し感染拡大が懸念される場合には、クラス単位での対応を行った。令和4年度は、4月、6月、7月、10月の4回にわたり、クラス単位での自宅待機・一斉遠隔授業の措置をとった。

1-3 政府方針変更への対応

(1) 濃厚接触者の待機期間短縮

令和4年7月22日より、濃厚接触者の待機期間が7日間から5日間に短縮された。さらに最終接触から2日目と3日目に抗原定性検査で陰性が確認された場合には3日目に解除可能となった。この変更は同日時点で待機中の濃厚接触者も対象となったため、本校でも速やかに待機期間の短縮を行った。ただし、八戸市保健所とも相談して実施していた同居家族が陽性の場合については、当面、従前どおりとした。また2日目と3日目に抗原検査で陰性となった場合の3日目での解除については、他学生等の安全を優先するため特別

な場合を除いて適用せず、5日目までの自宅待機をお願いした。

（２）陽性者の療養期間短縮

令和4年9月7日より、陽性者の自宅療養期間が、有症状の場合は従来の「発症から10日間かつ症状軽快後72時間」から「発症から7日間かつ症状軽快後24時間」に短縮された。併せて、7日間だった無症状の場合、5日目の抗原定性検査で陰性の場合には5日間に短縮された。これを受けて本校では、7月の濃厚接触者の待機期間変更と併せて療養・待機期間全体について再検討した。その結果、校内での感染拡大防止の観点から、感染者の療養解除基準の見直しに関する政府からの通知をもとに、自宅待機解除後の登校可能期間について、有症状の場合は10日目まで、無症状の場合は7日目までは「自主的感染予防行動」の期間と位置づけ、他の学生と直接接触する体育や部活動を避けてもらうこととした。濃厚接触者についても7日目までの期間は同様とした。本件については八戸市保健所とも相談の上、9月12日付けで対応一覧をまとめ、教職員には9月14日の教員会議、学生と保護者には9月22日付で一斉送信した文書と9月29日の校長講話後の諸注意で周知し、実質的には夏季休業明けから適用した。

（３）陽性者の全数把握の見直し

令和4年9月26日より陽性者の全数把握が見直され、陽性となった場合でも一部を除いて保健所への届け出が不要になった。これに伴い、保健所から陽性者への「発症日」や「自宅療養期限」に関する通知が行われないこととなった。本件への対応について八戸市保健所とも相談した結果、【様式4】で陽性となった旨を報告した学生に対して本校の担当者が聞き取りを行い、発症日や療養期限等を判断して指示することとした。さらに学校関係者等との接触状況を聞き取り、濃厚接触者に該当する学生等への連絡や自宅待機依頼についても、引き続き本校の担当者が行うこととした。これら対応の変更については9月29日の校長講話後の諸注意で学生に周知した。

（４）マスク着用判断の見直し

令和5年3月13日からマスクの着用が個人の判断に委ねられ、通学時の混雑したバスや電車内での着用が推奨されることになった。これについて、同20日付で高専機構本部から通知があり、令和5年4月1日以降、学生および教職員についてはマスクの着用を求めないことを基本とすることとなった。本校では3月27日付で学生・保護者に一斉送信した文書に本件について記載し、混雑したバスや電車内のほか感染の流行状況や換気が難しい場面等において着用を推奨する可能性があること、マスク着用の有無による差別や偏見等が生じないように留意することを含めて周知し、4月1日から適用した。

1-4 校内の個別事案対応の体制見直し

（１）夏季休業中の対応（8～9月）

第7波により陽性者が急増する中で迎えた夏季休業中には、全国高専体育大会をはじめとする課外活動や一日体験入学などの行事があり、それぞれの場面で発生した陽性者への対応をコロナ担当のみで行うのは困難と判断された。そこで課外活動については顧問教員、一日体験入学については教務主事と入試・キャリア支援係の協力を得ることとした。顧問教員には、練習時や大会参加時における学生の出席状況や体調に留意するとともに、別途作成した陽性者や濃厚接触者が発生した場合の対応一覧表を基に、学生への個別対応とコロナ担当者への報告を依頼した。なお、全国大会に参加したクラブにおいて複数の陽性者が発生したが、顧問教員の的確な対応により速やかに自宅待機等の指示や体調確認を行うことができた。

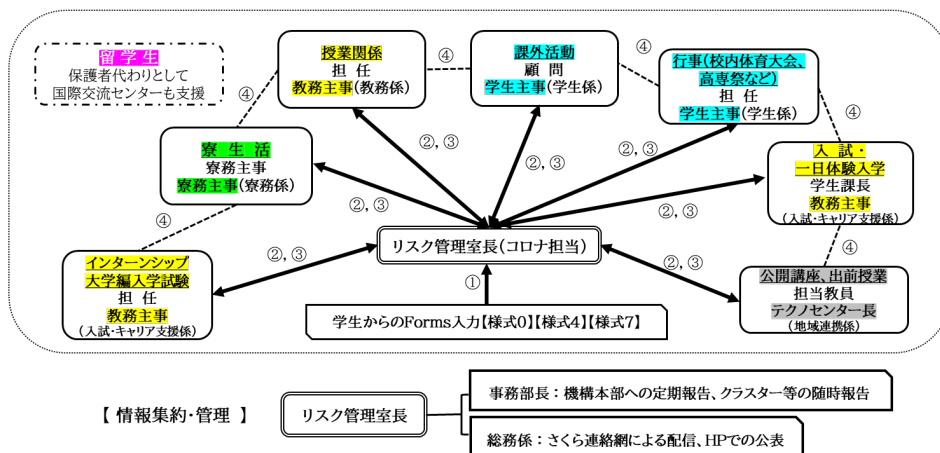
（２）コロナ担当が中心となりクラス担任等の協力を得る体制（9月～）

7月以降に陽性者が急増したこと、全数把握の見直しに伴う陽性者への聞き取り等業務の増加が見込まれること、および当初は特別な事例であったコロナ感染が一般的になったことなどを踏まえ、従来のコロナ担

当該での対応を見直すこととした。下図に示すように授業、課外活動、学寮、行事関係などの区分ごとに、それぞれ関係する委員会や担任、顧問教員等がリスク管理室長からの連絡に基づいて、学生からの聞き取り、待機の指示、濃厚接触者の特定などを行う体制をとることとし、9月の教員会議において、校長から教職員に協力を依頼した。また9月29日の校長講話後の諸注意で学生に予告した。

学生に関わるコロナ対応に関する体制について

- ①学生からの感染等報告
- ②リスク管理室長(コロナ担当)から関係分野所掌の教員への連絡
→ 当該教員等は、必要に応じて学生の行動履歴の確認(定型メール)、濃厚接触の可能性のある学生の特定、活動中止や自宅待機等の指示を行う。また、学生に対して授業のライブ配信等について確認する。
- ③リスク管理室長(コロナ担当)への報告・相談
→ 当該教員等は関係学生等の行動履歴や健康状態を把握し、リスク管理室長(コロナ担当)へ報告する。自宅待機解除等、その他不明事項があれば、随時リスク管理室長(コロナ担当)へ相談する。
- ④必要に応じて、横への情報共有



この方針に沿い、陽性者や濃厚接触者（疑い含む）一人ずつについて当該学生の担任、コース長、寮生の場合は寮務主事と寮務係を加えた校内メッセージをコロナ担当者が立ち上げ、その中で発症日や療養期限、体調などの情報を随時更新しながら共有できるようにした。クラス担任には学生のサポートやその後の登校確認等をお願いした。この方法は9月28日から開始し、2月1日までに約300件の校内メッセージを立ち上げた。なお、令和4年度に対応した陽性者や濃厚接触者（疑い含む）は、記録を残したもので約800名である。

この方法は情報共有の面からは有効であったが、クラス担任の関わりが限定的であるのに対し、校内メッセージの立ち上げや情報の随時追記などコロナ担当者の負担が大きく、感染者が多発する状況下では継続は困難と判断された。

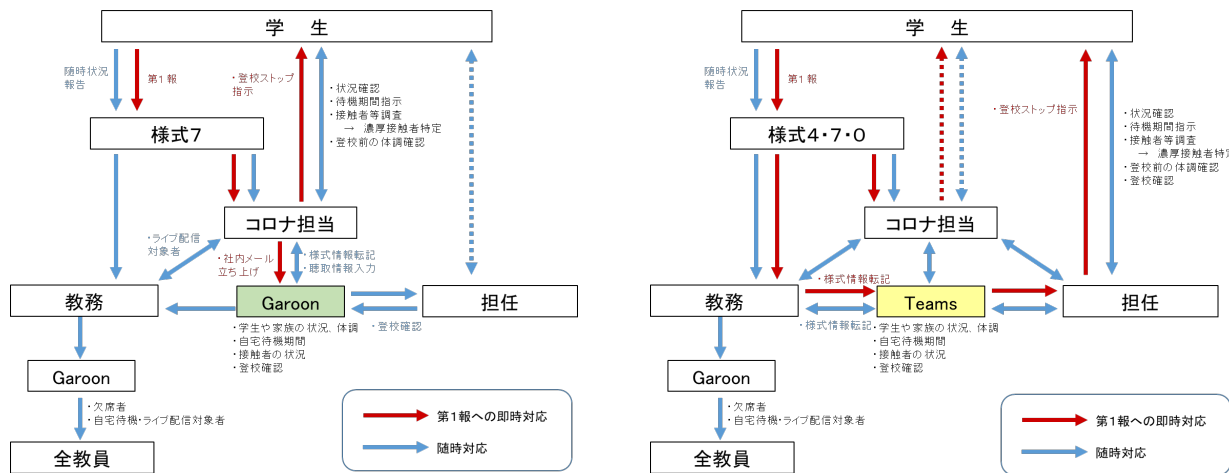
(3) クラス担任が中心となりコロナ担当が集約する体制（12月）

コロナ担当を中心とし Garoon の校内メッセージで情報を共有する下図(a)の体制の継続が困難と判断されたため、新たな体制案を検討した。コロナ感染に関わる内容はクラス学生の健康や出欠等に関するものであり、担任を中心とする対応に移行すべきと考えられる。しかし、従来の対応ではほとんどの教員が自宅で Garoon をチェックできないこともあり、担任から学生へ連絡してもらうところまで至らなかったことなどを踏まえ、図(b)に示すような体制案を作成した。

新たな体制案では、クラスごとに作成した Team を教務係、担任、コロナ担当で共有し、様式に入力された情報は教務係が該当クラスの Team に機械的に転記する。転記と同時に担任には通知メールが届くため、担任は校外でも自クラス学生の情報を得ることができる。この情報に基づいて担任が該当学生に状況確認や待機期間等の指示を行い、コロナ担当に報告する。担任には、情報を受けた際の具体的な対応手順をまとめたマニュアルとフロー図、想定される状況ごとの聴取内容や伝達事項を一覧にまとめた資料を配布し、これらを基に第一報から登校確認までの対応をお願いし、判断に迷った場合にはコロナ担当が相談を受けること

とした。これにより該当学生が 20 クラスに分散するため、クラスター等の場合にコロナ担当者が支援に加わることでそれほど無理なく対応できると期待した。

この新たな体制を冬学期から試行し、年明けから本格運用するとの案を 12 月 12 日の運営委員会に諮ったところ、勤務時間外の対応が必要になるなど、クラス担任の負担が大きすぎるとの意見が出され、改めて抜本的に考えることとなった。



(a) コロナ担当を中心とする従来の体制

(b) 担任を中心とする新たな体制案

(4) 自動送信メール等により学生自らが判断する体制（2月～）

クラス担任を中心とする対応案を抜本的に見直すにあたり、Microsoft 365 に詳しい教員を含めた WG を招集し、教員の負担そのものを軽減する体制を検討した。その結果、様式への入力に対して自動的に送信されるメールの指示に基づき、学生が自ら判断して行動する以下のような体制案を作成した。陽性者や濃厚接触者など、ライブ配信を必要とする学生に関する情報は、様式への報告内容を教務係が取りまとめ、Garoon 上で共有する。これにより学生への連絡等に係る負担は大幅に削減される。この案の概要は、令和 5 年 1 月 16 日の運営委員会で承認され、2 月 6 日付で学生・保護者に周知したのち 2 月 9 日から運用を開始した。

① Microsoft 365 を活用した待機期間等の指示

各種様式に報告した学生に対し、従来、コロナ担当者が直接連絡して行っていた状況の確認と自宅待機期間等の指示を、Microsoft 365 の機能を活用した自動送信メールによって行う。待機期限等は、新たに立ち上げる【様式】に入力された発症日等の情報を基に算出し、種々の指示内容とともに送信するメールに書き込まれる。併せて、新型コロナに関するポータルサイトを新たに開設し、様々な状況に応じた対処内容をいつでも学生が閲覧できるようにした。

② 学生自身による濃厚接触者の特定

従来、濃厚接触者の特定と自宅待機等の連絡は、コロナ担当者が関係学生等からの聞き取りに基づいて行っており、大きな負担となっていた。一方、感染者の全数把握が見直された 9 月 26 日以降、政府や自治体では、濃厚接触者の特定は陽性者自身が判断し、陽性者自ら連絡するよう求めている。そこで八戸市保健所とも相談のうえ、本校でも同様の対応をとることとした。陽性となった学生は、本校の基準を参考にして濃厚接触者の可能性がある友人等に自ら連絡するとともに、様式でその旨を報告する。連絡を受けた学生自身も濃厚接触かどうか判断し、その結果を様式で報告する。双方が濃厚接触と判断した場合には自宅待機、連絡を受けた側が濃厚接触に該当しないと判断した場合には接触到気を付けながら登校可能とした。

③ システム開発と新たな【様式】の開設

この体制を実現するため、新たに次の5つの様式を開設した。また、これらの様式に入力された情報に対し、算出した療養期限やポータルサイトの URL など書き込んだメールを自動的に送信するシステムを、Microsoft 365 に詳しい教員が開発した。

【様式 A】：陽性になった場合

【様式 B】：濃厚接触者になった場合

【様式 C】：体調不良になった場合

【様式 D】：同居家族が体調不良になった場合（濃厚接触者の疑い）

【様式 E】：自宅療養や自宅待機中の健康観察（ライブ配信希望）報告用

（5）コロナ対策部会とWGの設置

自動送信メールを利用した新しいシステムの運用開始を機に組織体制の見直しを行い、リスク管理室内に新たにコロナ対策部会およびコロナ初期対応 WG を設置した。部会は新型コロナへの対応策の検討、一斉遠隔授業実施などの緊急対応案の策定、新たなシステム運用上の課題解決などを担当する。また WG は対策部会の方針に基づき、各種様式の管理および感染疑いの個別事案に関する情報の集約と対応を担当し、構成員はそれぞれ次のとおりとした。

- ・コロナ対策部会 : ◎企画担当副校長、教務主事、学生主事、寮務主事、システム担当（2名）、
○事務部長、総務課長、学生課長、看護師、総務係長、教務係長、学生係長、
寮務係長、職員係長 (◎は部会長、○は副部会長)
- ・コロナ初期対応 WG : ◎システム担当、看護師、教務係長、学生係長、寮務係長、職員係長
(◎は WG 長)

この組織体制の見直しは令和5年3月27日の運営委員会で承認された。なお、新型コロナの状況が流動的であることから校務分担表には記載しないこととした。

1-5 新型コロナワクチンの職域接種

令和3年度に八戸市内の4高等教育機関が連携して「八戸版職域接種」の枠内で行ったワクチンの1・2回目接種について、八戸市の実行委員会から同様の枠組みで令和4年4月に3回目、同年12月に4回目の接種を実施する旨の連絡がそれぞれ2月、9月にあった。本校では、できるだけ多くの人に接種の機会を設けるため、対象年齢の全学生、全保護者、常勤・非常勤教職員及びその配偶者、関係業者を対象とする希望調査を行った。1・2回目と同様にワクチン担当 WG を設置し、希望者の取りまとめ、接種日程の調整や会場への移動手段確保などの準備と運営を行った。3回目接種、4回目接種それぞれの概要は以下のとおりである。

（1）3回目接種

- ・本校接種日 : 4月15日（金）、4月16日（土）、4月22日（金）、4月23日（土）、
4月29日（金）、4月30日（土）
- ・会場 : SG プラザ
- ・対象 : 18歳以上（2回目接種から6か月以上経過していること）
- ・使用ワクチン : 武田/モデルナ社ワクチン
- ・接種者数 : 399名（学生：228名、保護者：88名、教職員：72名、配偶者：11名）

（2）4回目接種

- ・本校接種日 : 12月3日（土）、12月9日（金）、12月10日（土）

- ・会 場 : SG プラザ
- ・対 象 : 18 歳以上 (1・2 回目の接種完了者)
- ・使用ワクチン : 武田/モデルナ社ワクチン (オミクロン株対応型)
- ・接 種 者 数 : 299 名 (学生 : 195 名、保護者 : 49 名、教職員 : 50 名、配偶者 : 5 名)

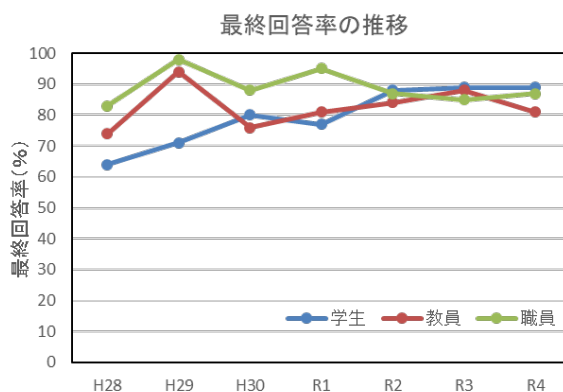
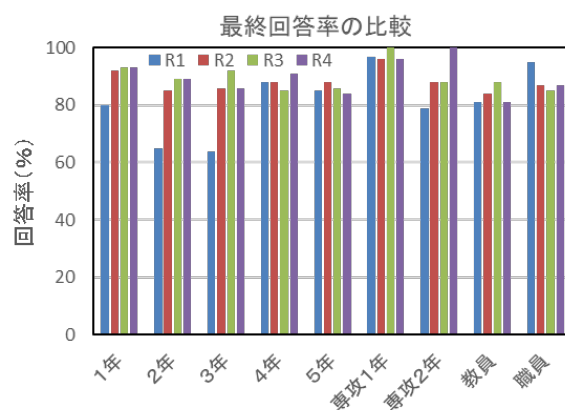
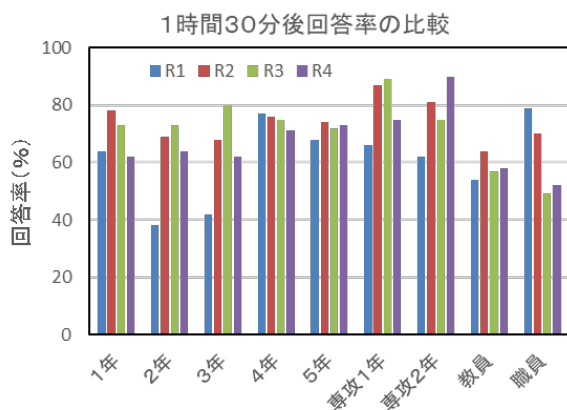
2. 緊急時の情報伝達および安否確認方法の改善

(1) 緊急時の情報伝達

保護者向けの情報伝達手段として令和2年度に導入した「さくら連絡網」の利用が定着し、新型コロナウイルス関連の一斉遠隔授業実施等に関する緊急連絡をはじめ、ワクチン職域接種や教務、学生、寮務などの業務においても大いに活用されている。

(2) 安否確認訓練の実施

大地震等の際に学生や教職員の安否を迅速に確認するため、安否確認訓練を実施した。確認手段としては令和2年度から行っている Forms を利用する方法を継続した。実施日時は公表せず、令和5年2月28日(火)12:30に訓練開始のメールを一斉送信した。訓練開始から1時間30分後、および最終の回答率の比較を下図に示す。Outlook メールで返信してもらう R1 年度までの方法に比べ、Forms を利用した R2 年度以降、明らかに初期段階(1時間30分後)の回答率が向上しているが、R4 年度は前年度よりも低下している学年が目立つ。一因として、訓練を実施した時間が成績確認の HR を行った直後の昼休みであり、学生教職員の多くが活動中であったことも考えられる。一方、最終回答率は前年度並みまたは向上している。専攻科2年生は、前年度の専攻科1年生に引き続き100%となっており、意識の高さがうかがわれる。過去7年の推移を見ても全体的に向上傾向が認められる。



3. 学内におけるリスクの調査

安全衛生専門委員会では、学内における教育・研究環境及び職場環境の状況を調査し安全を確保するために、毎月、衛生管理者による巡回点検及び各コース委員による職場安全パトロールを実施した。また毎月1回開催される同委員会において、各担当者からその結果を報告してもらい、改善に向けた意見交換を実施した。改善が必要と認められた場合には、各設備等の管理者および施設係に連絡して改善を促している。令和4年度に審議された主な内容は以下のとおりである。

- ① 各委員が職場パトロールを行う際に記入するチェックリストについて、項目内容の重複等があるとの指摘があり、一部、修正を行った。
- ② 巡回点検において、避難経路や防火シャッター、避難梯子の使用の妨げになる事項等が指摘され、対処した。
- ③ 学寮新棟への担架設置やAED設置場所に関する提案があり、階段幅の狭い新棟に適したタイプの担架を設置した。AED設置場所については、旧管理棟の事務室前から、E棟玄関付近への移設が適切であるとの意見を取りまとめた。

—令和4年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	男女共同参画委員会
行動計画	1. 女性教職員および女子学生の研究・就業・就学に対する支援 2. ダイバーシティ推進に関する広報の継続

1. 女性教職員および女子学生の研究・就業・就学に対する支援

(1) 女性教職員への支援

① 「いわて女性リーダー職研究者ネットワーク」第1回会議への参加

日 時：令和4年5月13日（金） 13：30～

場 所：オンライン（Zoom）

参加者：委員長

議 題：ネットワークの運営について

今年度の活動について

その他情報意見交換など

② 「北東北ダイバーシティ研究環境推進コミッティ」第1回実務担当者会議への参加

日 時：令和4年6月6日（月） 15：00～

場 所：オンライン（Zoom）

参加者：委員長

議 題：各機関における取組・活動予定について

コミッティとしての取組・活動予定について

ダイバーシティ事業の事後対応について

その他情報意見交換など

③ 「あおりダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議」年次会議への参加

日 時：令和5年3月14日（火） 15：00～16：00

場 所：オンライン（Zoom）

参加者：委員長

議 題：ネットワーク参加機関におけるダイバーシティ推進の取組について情報・意見交換

主に、本年度と次年度の女性（特に研究者や技術者）の在職比率，男性の育児・介護に関する休暇・休業，LGBTQに関する取組の状況や課題，その他ダイバーシティ研究環境推進の各機関の状況や取組について

④男女共同参画やダイバーシティに関する意識の啓発を図るためのミニFD

男女共同参画やダイバーシティへもっと意識を向けてもらうために、男女問わずに働きやすくなるような（ワークライフバランスを目的とする）いろいろな制度・仕組みを、委員会として教員会議

でわかりやすく教職員に紹介

日 時：令和5年3月8日（水） 15：00～の教員会議内

場 所：オンライン（Zoom）

担 当：担当委員

⑤女性支援のための就業環境整備（施設・設備）についてのアンケート

女子教職員全員に、令和5年3月6日（月）～21日（火）の期間でアンケートを実施

その後に結果分析し、教員会議で説明

日 時：令和5年3月29日（水） 15：00～の教員会議内

場 所：オンライン（Zoom）

担 当：担当委員

（2）女子学生への支援

①GCON 2022 本校は2件エントリー

①-1 テーマ名：「ろぼっと娘の だれにでも kawaii プログラミング！ in 支援学校」

チーム名：ろぼっと娘（プログラミング教育ボランティア愛好会）

参加者：学生6名

指導担当：指導教員

①-2 テーマ名：「コロナウイルスも真っ青！～藍と貝で抗菌・消臭できる乾燥剤～」

チーム名：HOTATEguy&I（ホタテガイアンドアイ）

参加者：学生4名

指導担当：指導教員

②デジコン！2022（岩手もりおか学生デジタルアイデアコンテスト）へのろぼっと娘の出場

テーマ名：「ろぼっと娘の どこでも kawaii プログラミング！ in 岩手」

日 時：本選は令和4年11月23日（水）13：00～

参加者：学生7名

優秀賞（第2位）受賞

大会の様子は YouTube で全国に Live 配信

ろぼっと娘の追っかけ事前取材や大会の様子を撮影した番組が岩手めんこいテレビで

令和5年1月22日（日）放送

③ロールモデル講演会

日 時：令和5年2月27日（月）13:00～15:00

場 所：合併教室

講 師：株式会社ファンクショナルフルイッド 講師

東北大学大学院工学研究科 教授 講師

参加者：学生約50名（内男子学生1名），教職員8名

担 当：担当委員2名

④修学環境改善目的の女子学生懇談会

日 時：令和5年2月28日（火）9:30～10:20

場 所：50周年記念ホール

内 容：2～4学年の女子学生のグループワーク形式懇談会を実施

参加者：学生50名

担 当：担当委員2名

2. ダイバーシティ推進に関する広報の継続

(1) 中学生一日体験入学における「ろぼっと娘」の活動

日 時：令和4年9月3日（土）および4日（日）

場 所：本校講義棟1，2階廊下

参加者：学生7名

内 容：「ろぼっと娘」メンバーが、2日間ブースを設置

中学生にロボットの操作体験をさせ、活動を紹介

指導担当：指導教員

(2) 「ろぼっと娘」による出前授業

指導担当：指導教員

①日 時：令和4年9月1日（木）および15日（木）

場 所：西白山台小学校

参加者：学生7名

内 容：「ろぼっと娘」メンバーが、小学校理科実験クラブの4～6年生20名に対して

2回にわたり、プログラミングについての授業とロボット操作体験学習を行った

受講者：20名

②日 時：令和4年10月31日（月）

場 所：白銀小学校

参加者：学生11名

内 容：小学校6年生23名にプログラミングについての授業とロボット操作体験学習を行った

受講者：23名

③日 時：令和4年11月9日および12月3日

場 所：八戸工業大学第二高等学校附属中学校（オンライン1回，対面1回）

参加者：学生10名

内 容：中学校1年生23名に、2回にわたりプログラミングについての授業とロボット操作体験学習を行った

受講者：15名

④日 時：令和4年12月6日

場 所：八戸市立第二中学校

参加者：学生10名

内 容：中学校3年生にプログラミングについての授業とロボット操作体験学習を行った

受講者：86名

⑤日 時：令和4年12月15日

場 所：八戸盲学校聾学校中学部

参加者：学生10名

内 容：中学生にプログラミングについての授業とロボット操作体験学習を行った

受講者：10名

⑥日 時：令和4年12月16日

場 所：岩手県洋野町立大野中学校

参加者：学生10名

内 容：中学校2年生にプログラミングについての授業とロボット操作体験学習を行った

受講者：37名

⑦日 時：令和4年12月26日

場 所：本校

参加者：学生10名

内 容：八戸市立東中学校2年生にプログラミングについての授業とロボット操作体験学習を行った

受講者：119名

⑧日 時：令和5年2月24日

場 所：五戸町立上市川小学校

参加者：学生10名

内 容：小学校6年生にプログラミングについての授業とロボット操作体験学習を行った

受講者：15名

(3) まちなか文化祭における「ろぼっと娘」と専攻科女子学生の活動

日 時：12月17日(土) 10:30～15:00

場 所：八戸ポータルミュージアムはっち1階 はっちひろば 他

内 容：本校まちなか文化祭の中で、「ろぼっと娘」がブースを設置し、ロボットの操作体験を行った。また、専攻科女子学生がブースを設置し、授業や研究、進学、就職等の紹介を行った

参加者：「ろぼっと娘」および専攻科女子学生11名

外部参加者：地域の小中学生、一般市民 133名

指導担当：指導教員2名

(4) 八戸高専ホームページでの発信

①「ろぼっと娘」の記事

令和4年4月1日, 9月21日, 10月27日, 12月27日(2回), 令和5年1月13日

②「機構本部男女共同参画推進室担当理事の本校訪問、男女共同参画に関する意見交換」の記事

令和4年7月28日

③「ロールモデル講演会」の記事

令和5年3月7日

④「女子学生懇談会」の記事

令和5年3月20日

(5) 地元新聞・テレビ等で「ろぼっと娘」の紹介

①地元新聞記事掲載

令和4年9月17日, 12月21日, 12月22日, 令和5年3月4日

②テレビ放映

「デジコン! 2022」(本選令和4年11月23日(水))大会の様子がYouTubeで全国にLive配信
ろぼっと娘の追っかけ事前取材や大会の様子を撮影した番組が岩手めんこいテレビで
令和5年1月22日(日)放送

(6) 文教速報に記事掲載

①「八戸高専『ろぼっと娘』が小学校で出前授業」

令和4年11月28日 第9197号

②「『ロールモデル講演会』を開催 八戸高専が女子学生らを対象に」

令和5年3月31日 第9244号

(7) 月間高専「高専教員取材」に本校女性教員の記事掲載

①「ボストンから八戸へ! グローバル社会で得た経験を研究・教育に生かしていく」

令和4年7月28日 No.273

②「対話から関心を持った『オーラルヒストリー』 雑談を通して、学生に『面白さ』を導いていく」

令和4年8月31日 No.284

③「『触媒』で環境をきれいに! 高専の先輩として『自分の経験をたくさん話して』学生に寄り添いたい」

令和4年10月6日 No.294

(8) 「高専だより」での報告

第163号(令和5年3月発行)において、「女子学生の活躍 ー男女共同参画委員会よりー」を掲載

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	キャリア教育・学習支援センター
行動計画	1. キャリア構築のための全学的支援プログラムの充実（継続） 2. 低学年の学習支援体制の検討と充実（新規） 3. 進学支援体制の検討と充実（新規）

1. キャリア構築のための全学的支援プログラムの充実（継続）

1. 1. キャリア関連講座の実施

次の説明会および講演会を開催した。※開催順

(1) 1年対象キャリア説明会

日時：4月4日（月）※始業式当日

方法：動画配信

題目：将来を見据えた学生生活と学習支援プログラムの紹介

(2) 5年対象進路説明会

日時：4月4日（月）※始業式当日

方法：動画配信

内容：自己PR文作成の進め方 & 就職試験と編入学等受験手続き & 5年の学習支援

(3) 2年対象キャリア説明会

日時：4月6日（水）7h

場所：合併教室（対面）と記念ホール（Teamsでライブ配信）

題目：職種と学歴および学習支援プログラムの紹介

(4) 3年対象キャリア説明会

日時：4月13日（水）7h

場所：記念ホール（対面）と記念会館（Teamsでライブ配信）

題目：進路研究の重要性および学習支援プログラムの紹介

(5) 4年対象インターンシップ準備講座

日時：4月18日（月）7-8h

場所：記念ホール（対面）と記念会館（Teamsでライブ配信）

内容：メールの書き方講習 & 手続き方法の説明 & 進路決定に向けて必要なこと

(6) 3年対象自己分析講座

日時：7月6日（水）14:40-16:10

会場：Teamsでライブ配信

内容：自己分析、職業適性 他

講師：ジョブカフェあおもり キャリアカウンセラー

(7) 4年対象インターンシップ準備講座②

日時：7月13日（月）14：40－16：10

場所：記念ホール（対面）と記念会館（Teams でライブ配信）

内容：働く意義、ビジネスマナー 他

講師：ジョブカフェあおもり キャリアカウンセラー

(8) 1年対象 自己分析講座

日時：7月27日（水）14：40－15：40

会場：記念ホール（対面）と記念会館（Teams でライブ配信）

内容：自己分析（エゴグラム）

講師：本校スクールカウンセラー

(9) 4年対象 就職活動準備講座①

日時：9月28日（水）10：30－12：00

場所：合併教室（E4、C4、対面）と記念ホール（M4、Z4、Teams でライブ配信）

内容：進路選択と就職活動に向けて必要な準備 他

講師：(株) マイナビ

(10) 保護者後援会企画 3年対象キャリア説明会

日時：11月17日（水）14：40－16：10

場所：第二体育館

講師：島根大学 総合理工学部 助教

演題：重度障害児の「できる！」をサポートするテクノロジーの研究開発

(11) 全学年希望者対象 進学予定者報告会

日時：12月7日（水）14：40－16：10

場所：合併教室

参加人数：1年7名、2年5名、3年6名、4年28名、5年9名、専攻科1年1名 計56名

(12) 本科5年・専攻科1年生対象キャリア講演会「知って役立つ労働法」

日時：2月20日（月）10：30－12：00

場所：合併教室（対面、ME・専攻科）、記念ホール（ライブ配信、CZ）

講師：青森労働局 労働基準部 監督課長

(13) 4年対象 就職活動準備講座② および キャリア説明会

日時：2月27日（月）9：30－12：00

場所：合併教室（E4、C4、対面）と記念ホール（M4、Z4、Teams でライブ配信）

内容：就職活動の日程、具体的な準備、ES・面接対策 他

講師：(株) マイナビ

1. 2. 学生への進路活動関連情報提供

入試・キャリア支援係に届いている企業説明会や大学オープンキャンパスなどの進路活動に関する案内を、年間で60件、対象学年にメールで通知した。

1. 3. 就職関連図書の購入

新規に、四季報や業界地図、面接関連等の書籍を図書館に配備した。

1. 4. 自己PR文作成体制の充実

1. 4. 1. 作成マニュアルの作成

進路活動における自己PR文やエントリーシート等の作成の補助とすることを目的としてマニュアルを作成し、進路活動に入る4年生および専攻科1年全員に配布した。

また、指導する教員の負担分散のため、学生の作成した文章のチェック体制を周知した。

1. 4. 2. 作文指導

自己PR文作成指導コーディネータに、希望学生に対して、主に放課後に時間帯に、春学期は週2回、それ以降も必要に応じて年間42日作文指導をしていただいた。

1. 5. 進路参考資料の作成

学生の進路先を決める参考として、進路に関する情報や5年生の学力と進路先の分析データ、先輩のコメント、進路活動の手続き等をまとめた資料を作成し、進路活動に入る4年生および専攻科1年全員に配布した。

2. 低学年の学習支援体制の検討と充実（新規）

2. 1. 基礎数学学習セミナーの実施

前年度のアンケート結果から年度初めに実施方法を再検討し、数学科、教務委員会、専攻科、相談室、担任と連携した体制で、数学の低学力学生を対象としたセミナーを実施した。実施状況は次の通りである。

セミナー対象人数：延べ159名

内訳：1年 M 33名（春9＋夏6＋秋13＋冬5）、

E 9名（3＋1＋4＋1）、

C 17名（9＋3＋5＋0）、

Z 15名（6＋6＋3＋0）

2年 M 43名（7＋12＋13＋11）、

E 14名（0＋8＋3＋3）、

C 9名（1＋1＋6＋1）、

Z 19名（4＋8＋1＋6）

TA人数：延べ48名（春10＋夏14＋秋14＋冬10）

2. 2. メンター制度の実施

メンター・メンティのマッチング期間を、前年度の通年から、学期ごとに変更して実施した。実施状況は次の通りである。

・マッチング数 53件

内訳：【メンティ】Mコース計 5名 (M1×2名、M3×3名)

Eコース計24名 (E1×10名、E3×10名、E4×4名)

Cコース計 7名 (C1×2名、C2×1名、C3×4名)

Zコース計17名 (Z1×2名、Z2×4名、Z3×10名、Z4×1名)

【メンター】Mコース計 5名 (M4×4名、M5×1名)

Eコース計18名 (E4×7名、E5×11名)

Cコース計 7名 (C4×4名、C5×2名、AC1×1名)

Zコース計10名 (Z4×3名、Z5×6名、AZ1×1名)

・年間総実施時間数 974時間 ※参考：令和3年度323時間

2. 3. 学習補助図書の購入

科目担当教員による推挙により選出された問題集や参考書を図書館に配備した。

2. 4. グローバルラーニングセンター (GLC) 事業の周知

GLC事業のうち、低学年の学習支援に関する“英語到達度試験対策”の状況を教員会議のキャリアセンター報告内で報告した。

3. 進学支援体制の検討と充実 (新規)

3. 1. 大学説明会の開催

次の希望者対象の大学説明会を開催した。

(1) 東北大学大学院

日時：6月15日(水) 14:40-15:40

対象：専攻科1年、専攻科2年希望学生、専攻科進学希望5年

講師：東北大学大学院 工学研究科 量子エネルギー工学専攻 教授

(2) 東北大学大学院 AIE プログラム

日時：6月15日(水) 16:00-17:00

会場：50周年記念ホール (対面)

対象：専攻科1年、専攻科2年希望学生、専攻科進学希望5年

講師：東北大学大学院 工学研究科 人工知能エレクトロニクス教育研究センター
特任教授

(3) 東京工業大学

日時：1月25日(水) 14:40~16:10

対象：本科1~5年生および専攻科1年生の希望者

場所：記念ホール

(4) 北陸先端科学技術大学院大学 説明会

日時：1月25日（水）16：10～17：10 ※東工大説明会後開催
場所：記念ホール
対象：本科1～5年生および専攻科1年生の希望者

また、次の各コース主催の大学説明会が開催された。

(1) Eコース主催 東京工業大学

日時：10月11日（水）14：40～16：10
場所：記念ホール
対象：4年および専攻科1年の希望者対象
講師：東京工業大学 工学院電気電子系 准教授
八戸高専電気情報工学科H30年度卒 OB

(2) Cコース主催 東北大学学際科学フロンティア研究所

日時：1月17日（火）14：45～16：00
場所：50周年記念ホール
対象：3～5年、専攻科1年の希望者
講師：新領域創成研究部 助教

(3) Cコース主催 東京農工大工学部化学物理工学科編入生募集説明会

日時：2月8日（水）15：00～
対象：本科3,4年の希望者
場所：50周年記念ホール（Zoomによるオンライン説明会）

3. 2. 数学発展セミナーの実施

コーディネータにより作成された、2年用～A2用の自学用数学コンテンツをBlackboard上に載せ、対象学年の学生が自学可能な体制を整えた。なお、Blackboardへの各コンテンツへの学生のアクセス状況による利用状況（2023年2月9日時点）は次の通りである。

2年21名、3年44名、4年55名、4年(確率)31名、5年31名、A1年7名、A2年5名

3. 3. 進学希望者勉強会（数学発展集中セミナー）の実施

約2週間で5回の集中セミナーを実施した。参加人数は次の通りである。

R4年4月4回 13名(4/7)→11名(4/12)→7名(4/13)→6名(4/14)

※コロナで延期となった前年度の振替

R4年9月5回 16名(9/26)→10名(9/27)→6名(9/28)→7名(10/3) →2名(10/13)

R5年2月5回 1名(2/17)→1名(2/20)→2名(2/21)→1名(2/22) →2名(2/27)

3. 4. 受験直前模試の実施

受験対策として数学と英語の模擬試験を次のように実施した。

(1) 数学直前模試

5年対象、2022年4/9(土)実施、受験者数31名

(2) 英語直前模試

4年および進学希望5年生対象、2022年5/14(土)実施

受験者 技科大レベル8名、東工大レベル7名

3. 5. 数学模擬試験の実施

数学の受験に必要な学力の確認のため、次のように模擬試験を実施した。

(1) 実施概要

レベルに応じた4コースの選択制、いずれも100点満点

コースⅠ(1年生向け大学入試レベル)、6名登録

コースⅡ(2年生向け大学入試レベル)、10名登録

コースⅢ(3,4年生向け技科大レベル)、9名登録

コースⅣ(3,4年生向け旧帝大レベル)、26名登録

(2) 参加者と点数

コースⅠ 4名受験(M1×0名、E1×1名、C1×1名、Z1×2名)

最高点66点、最低点24点、平均点41.5点

コースⅡ 7名受験(M2×0名、E2×3名、C2×2名、Z2×2名)

最高点70点、最低点15点、平均点39.1点

コースⅢ,Ⅳ 合せて約20名受験 点数なし

3. 6. 編入学関連図書の購入

進学予定者報告会、5年生・専攻科2年生からのアンケート調査、科目担当教員などから推挙された編入学および大学院試に関する問題集や参考書を図書館に配備した。

3. 7. グローバルラーニングセンター(GLC)事業の周知

GLC事業のうち、高学年の学習支援に関する“イーブニングクラス”と“TOEIC IP”の日程を教職員に対しては教員会議のキャリアセンター報告内で、学生へはキャリア説明会やメールで周知した。

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	教育プログラム委員会
行動計画	1. 教学アセスメントプランの検討

1. 教学アセスメントプランの検討

教学 IR 推進のため今年度は、八戸工業高等専門学校教学 IR 室規則を制定した。教学 IR 室は、教育活動に関する目標を達成するために行う学生情報（入試データ、教務データ等）の収集・分析に関することや、この分析結果に基づいた本校の教育活動の改善・高度化等への活用方法の検討に関することを主な業務とする。

今後、教学 IR 室が中心となってディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの3つのポリシーに則した各種情報の収集、分析を行う。なお、アセスメントプランの策定は、令和5年度に行うことになった。

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	教育プログラム計画委員会
行動計画	1. 外部評価への対応（継続）

1. 外部評価への対応（継続）

令和2年度に以下のカリキュラムマップとカリキュラムツリーの改正を行った。

●カリキュラムマップとカリキュラムツリーの作成

「高専教育の質保証」に関連して、教育プログラム委員会により本校の専攻科・本科の各コースごとのDP（ディプロマ・ポリシー）、CP（カリキュラム・ポリシー）が設定され、これに基づいて、専攻科・本科の各コースおよび一般教科のカリキュラムマップとカリキュラムツリーを作成し直した。

・旧シラバスの「目標別関与割合（%）」から ◎と○ への読み替えについて、平成27年度第4回産業システム工学プログラム計画委員会（2016/3/2）会議記録より、◎が2つあること自体は問題なしと確認。

・あらためて今回のカリキュラムマップでコース内、コース間のバランスを調整した。

「応用数学」、「応用物理」、「情報処理（Zはプログラミング）」については、DP2 ◎ DP3 ○

「産業システム工学セミナー」については、 DP3 ○ DP4 ◎ DP6 ○

「産業システム工学概論」については、 DP3 ◎

「卒業研究」については、 DP4・5 ◎ DP1・2・3・6 ○

で各コースとも統一した。

実験・実習系については、各コースの判断によることにした。

・全コースで「地域指向科目」の見直しと、DP5○との整合を図った。

（DP5は関与割合が大きくなっても○。ただし無理なタグ付けは廃した。）

・各コース・科の科目担当者への確認を繰り返し、新カリキュラムマップを確定。このカリキュラムマップに基づいて、カリキュラムツリーとシラバスの整合をとった。

以上の改正された、カリキュラムマップとカリキュラムツリーをもとに、自己点検評価書やシラバスへの反映を行い、運用の過程においてさらに改善点等を検討してきた。

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	教育プログラム点検・評価委員会
行動計画	1. 授業点検の実施 2. エビデンス点検と抜き取り調査の実施 3. シラバス 及び 自己チェックリストの点検の実施 4. 規則改正

1. 授業点検の実施

以下の日程でオープン授業推進週間期間に教員の授業点検を実施した。

春学期：2022年 4/18(月) ～ 4/22(金)

夏学期：2022年 6/13(月) ～ 6/17(金)

秋学期：2022年 11/7(月) ～ 11/11(金)

春学期、夏学期、及び秋学期のオープン授業推進週間を利用し、合計8名の授業点検を実施した。

2. エビデンス点検と抜き取り調査の実施

令和3年度（2021年度）の成績エビデンスの点検と抜き取り調査を4月より順次開始し、3月末までに完了した。一部の未収集科目については、来年度継続とした。また、令和5年3月で転出される教員の令和4年度の授業エビデンスについては、令和5年3月末までに実施、点検することとした。

3. シラバス 及び 自己チェックリストの点検の実施

令和5年度のシラバスの点検として、新設科目、授業内容が大きく変更がある場合、授業担当者の変更がある場合は、授業担当者が自己チェックリストを提出し、シラバスと合わせて教育プログラム点検・評価委員が点検を実施した。

4. 規則改正

数理・データサイエンス・AI教育プログラムの点検・評価を行う際に、具体的な点検・評価方法を明記し、適切に実施するため、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの点検・評価方法を策定し、教育プログラム点検・評価委員会規則に、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの点検・評価を本委員会を担当する旨を明記し、規則改正を行った。

また、教育プログラム点検・評価委員会では、毎年、前年度のすべての授業科目のエビデンスの点検を実施しているが、点検業務は委員の負担が非常に大きい業務のひとつであることから、点検業務の負担軽減を目的として、点検方法と体制の見直しを行った。

—令和4年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	総合科学教育科
行動計画	1. 教育内容の充実 2. 情報共有と連携 3. 業務量の均等化と負担軽減

1. 教育内容の充実

(1) 数学科

キャリア教育・学習支援センターと協力して、1,2年生への数学支援セミナーを実施した。春、夏、秋、冬の各学期で、TAとなった専攻科学生を指導して少人数グループによる補習を行い、再試験や補充試験の対策を行った。また、到達度試験前には、数学寺子屋を開き、学生の質問に答える場所と時間を提供した。

(2) 英語科

到達度試験前、補充試験前に1年生対象に補習授業を行った。英検対策を授業にも取り入れ、意識を高めた。冬学期は1・2年で習熟度別クラス編成を行い、英検対策・TOEIC対策を取り入れた。2年生で英検準2級を取得していない学生についての情報を各担任とGLCとで共有した。また、最終的にGLCによる「準2級相当」の認定の可否を英語ⅡB（審議対象科目）担当教員と共有した。

(3) 自主探究

総合科学教育科教員を中心とするコーディネーターが、4,5年生から選ばれたファシリテーターを指導し、低学年生の探究活動をサポートした。2月のポスター発表会は、3年ぶりに体育館で行われ、活発な質疑応答が行われた。

(4) 各教員の実施例

- ・学生の理工系英語力・モチベーション向上のため技術英検のワークショップ、5年生の卒業論文における英語での発表の指導(C5)を行った。
- ・大学編入推薦入試の英語口頭試問対策指導、トビタテ!留学 JAPAN 大学生(STEAM)コースの申込み(現 E4)学生の申請書類の添削、希望留学先(国立天文台すばる望遠鏡ハワイ観測所)の教官を紹介し、オンライン会議を通じて申請までのサポートを行った。
- ・思考力の向上や進学に必要なテクニックを授業の中に盛り込んだ。
- ・卒研の指導を行った(E5)。
- ・模擬試験(数学)を行った。

2. 情報共有と連携

近年、学科会議がメール会議となっていたため、コミュニケーションの場を増やすべく、学科会議を定例の対面会議で開いた。委員会、学年からの情報をその場で共有し、質疑応答をすることができたが、欠席者が少なからずあったことが課題であった。

従来は社内メールで連絡が行われてきたが、メールが増えたため、その管理が問題となっていた。令和4年度から、ガルーン上に「令和4年度総合科学教育科」のスペースを作り、委員会、学年、学科長からの連絡と情報共有を効率的に行えるようにした。

3. 業務量の均等化と負担軽減

人文社会系の教員を主なメンバーとする地域文化研究センターは、近年、活動がなかったため、これを廃止して、業務内容と予算を地域テクノセンターに吸収させた。増える一方である委員会を1つ整理することができ、ほんの少しだが負担軽減になった。

日常の業務において、また令和5年度の校務分担作成において、校務の業務量を均等化するべくよい方法を模索したが、人員不足という状況もあり、よい方策がなく、十分には実施できなかった。以前から指摘のあった、担任業務の負担軽減には手を付けられなかった。

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	機械・医工学コース
行動計画	1. キャリア支援（継続） 2. 増募対策（継続） 3. ものづくり教育の見直し（新規）

1. キャリア支援

就職・進学支援はこれまで通り、三者面談を4年生の12月（全員対象）及び翌年3月（就職希望者対象）に実施した。5年生の4月には進学希望者を対象として実施した。就職はコース長，進学は担任が担当している。会社，学生への連絡，履歴書，エントリーシートのチェックは主にコース長が行なった。面接指導は研究室の指導教員が行ない対応した。本科卒業生31名のうち，就職希望は13名，進学希望は18名だった。専攻科修了生7名については，就職希望が3名，進学希望は4名だった。本科，専攻科とも就職希望者は全員内定をいただいた。本科からの進学者は，進学先は専攻科5名，豊橋技科大3名等であった。

なお、Mコースの各学年の学生に対して、以下のように、クラスごとに進路説明会を実施した。

M1 R5年1月18日

M2 R4年6月3日

M3 R4年6月6日

M4 R4年6月15日、7月27日

また、翌年度の進路活動の参考とするため、進路が決まったM5学生に就職活動、編入学試験の報告書を提出してもらった。

2. 増募対策

Mコースの過去5年間の入試倍率をみると、学校平均倍率を下回っている。R5年度は学校全体でも大幅に倍率が下がったが、Mコースも同程度の低下であった。増募対策として毎年、中学生対象公開講座（2回）、小学生対象公開講座（1回）をコース主催で実施してきたものの、残念ながら増募には結びついていない。その最大の原因は、他コースに比べて女子受験者が少ないことであり、機械コースの入試倍率をアップするためには女子受験生を更に増やす工夫、及び他コースよりも魅力的な内容にすることが必要不可欠である。

こうしたことから、R2年度初めからコース名変更手続きに着手し、R3年4月から、機械・医工学コースに改称した。R2年度後半からは、中学校向けの資料等でコース名変更をアピールしてきたものの、入試倍率向上には繋がっていない。R5年度はこの点のアピールに一層取り組んでいきたい。

また、先に述べた中学生対象公開講座も、女子中学生受けをする講座を検討しなければならないと考えている。同様に体験入学でのコース説明及び見学、高専祭コース公開などで女子中学生へのアピール方法を検討したい。

3. ものづくり教育の見直し

Mコースでは R6 年度末と R7 年度末に、長年 3～5 学年の設計製図を担当してきた教員が相次いで退職する。このため、設計製図担当教員育成を目的として、

- これまで 1 学年の設計製図ばかりを担当してきた教員に、2 学年の授業を経験してもらう。
- 電気系出身の新任教員は、1 学年の授業のサポートに入ってもらい、製図教育法の基礎を学んでもらう。

などの措置を講じた。

また、これまでは 3 学年春・夏学期の「CAD I」で 2 次元 CAD の操作法を教え、設計製図では秋学期から 2 次元 CAD で作図させるようにしていた。これを CAD 教育見直しの一環として、2 学年の設計製図の最初に操作法を教えて、その後は CAD で作図させるように改めた。また、それに伴って、3 学年の「CAD I」や、3 次元 CAD の操作法を教える 4 学年の「CAD II」の内容も改めることにした。

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	電気情報工学コース
行動計画	1. 基礎学力の向上（継続） 2. 進路支援（継続） 3. 増募対策（継続）

1. 基礎学力の向上（継続）

・第2種電気工事士技能試験の基本対策

2名の受検希望の学生を対象とし、放課後の時間に個別に第2種電気工事士の技能試験対策の基礎情報、工具の使い方、ケーブルの裁断などの基本作業について指導した。また、候補問題の配線作業を実際に体験させた。工事作業の経験が少ないため、重要な経験になり、資格取得につながっている。

2. 進路支援（継続）

・三者面談及び就職指導の実施

電気情報工学コースにおいて、12月の4年保護者懇談会では全学生と三者面談を実施、3月には4年生の就職希望者を対象に三者面談を実施した。前年度も同様の取り組みを行い、その後、企業選択の支援・アドバイス、及び履歴書、エントリーシートの添削、面接指導までの一貫した就職活動支援を、コースをあげて実施し、順調に就職希望者全員の内定を得ることができている。

・キャリア教育向けのポータルサイト

電気情報工学コースの学生向けに、キャリア教育向けの SharePoint サイトを開設した。現時点は、就職活動に関するイベントなどの情報提供、就職活動に関する年間のスケジュール、その他の関連サイトの URL などを掲載し、早期から就職の準備ができるようなサイトを作成した。

3. 増募対策（継続）

・電気情報工学コースのホームページの更新

電気情報工学コースのホームページの情報を更新し、本コースの最新の教育・研究活動の紹介を行った。

・令和4年度 STEAM 教室における授業

12/26 に八戸市立東中学校の2年生、2/20 に八戸市立長者中学校の2年生を対象に、本校で開催した STEAM 教室において、電気情報工学コースのテーマとして LED 電子工作・プログラム作成体験の授業を実施した。

—令和4年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	マテリアル・バイオ工学コース
行動計画	1. 進路支援の充実（継続） 2. 専門分野における地域貢献（継続） 3. 増募対策（継続）

1. 進路支援の充実（継続）

1年生に対しては、新入生ガイダンスやマテリアル・バイオ工学序論の講義を通じて、高専5年間在学中の学習内容や卒業後の進路について概要説明を行った。

1年生には、6月、9月の2回にわたって研究室訪問を行い、各教員や研究室所属の学生と学校生活や進路、実験や研究等について懇談した。また、7月にコースの進路状況の説明を行った。2、3年生に対しては、7月と1月の特活の時間を利用して、進学や就職状況についてコース長が説明を行った。また、1月には、進学が決まった5年生から進学に向けての勉強方法などを説明してもらった。3年生については、就職した卒業生からの企業や業務、学生時代の取り組みの紹介をしてもらった。

4年生に対しては、7月に、コース長から、就職と進学について今後のスケジュールや準備について説明を行った。12月に保護者懇談会を実施して、本校卒業生の主な進学、就職先に関する説明の他、進路確定までの流れについて説明した。この面談によっておおよその方針が決定された。さらに2月には、就職、進学に関する進路ガイダンスを実施した。これらの準備を経て、3月に就職希望者に対してコース長が個別面談を行い、4月からの応募に向け履歴書などを準備するよう促した。また、同じ2～3月には進学希望者に対して担任との個人面談を行い、受験先を決めた。専攻科生についても4年生と同様の指導を行った。

コースの全学生を対象として、キャリア教育・学習支援センターと連携して、豊橋技術科学大学等の各大学の説明会を実施し、進学希望者の大学・大学院進学に向けた準備を進めることができた。

2. 専門分野における地域貢献（継続）

理科好き小中学生を育てる活動として、「化学の学校～マテリアル・バイオ工学の世界によろこそ～」を10月に対面で実施した。今年度は、はじめて小学生も対象とした。2日間で73名の参加があり、うち19名は小学生だった。終了後のアンケートからは、「充分満足」87%、「やや満足」5%となり受講者にとって満足のいく内容になった。また、本コース教員が地元企業などと連携して「三内丸山酵母」を使用したパンを開発・販売し、地域に貢献できた。

3. 増募対策（継続）

本コースでは、理科好きの中学生を育成する活動として「化学の学校」を対面で実施した。R3年度は40名の参加であったが、R4年度は73名となり参加者が1.8倍となった。また、お昼休みには、中学生や保護者を対象とした相談会を実施した。授業内容や卒業後の進路など幅広く質問が寄せられ、参加者には好評であった。他には、コースの情報発信のためにホームページの改訂は随時行っており、学生や教員の動向をトピックスとしてまとめている。

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	環境都市・建築デザインコース
行動計画	1. コース志望者の増募対策（継続） 2. 環境都市・建築デザインコースの教育環境および資格関係の整備・見直し（継続）

1. コース志望者の増募対策（継続）

公開講座は、本コースの面白さを中学生に体験していただくため、3回の講座からなる公開講座シリーズを企画した。これらを通して災害に強く快適な都市・まちづくりを考える講座となっている。テーマは「環境都市・建築デザインコース公開講座シリーズー環境都市・建築デザイン事始め三講ー」であり、中学生対象に「建築模型をつくろう」、「水の浄化実験」、「ペーパーブリッジをつくろう」の3件を企画した。参加人数は、「建築模型をつくろう」は中学生の参加者37名、「水の浄化実験」10名、「ペーパーブリッジをつくろう」は21名の参加であった。公開講座は志願者増の対策として重要と考えられる。

本科推薦入試志願状況22名、0.9倍となり、過去3年間の志願者数より減少した（22年度1.9倍、21年度1.4倍、20年度1.5倍）。また、本科学力入試では22名1.8倍であった。推薦、学力に国際エンジニア育成と2次募集を通じた入学者は36名と定員40名を下回り、推薦と学力入試志願者数が伸び悩んでおり、今後の検討課題である。

2. 環境都市・建築デザインコースの教育環境および資格関係の整備・見直し（継続）

（1）R4年度のコース長裁量経費による教育環境整備

教育環境の整備として、以下の経費支出や物品購入を行った。

R3年度卒業研究論文製本費、大型プリンターのヘッド交換、コースの図書（雑誌）購入費、新任教員用PC一式、トータルステーション(TS)修理費、プリズム購入費、総合科学科教員の卒業研究費、学生実験消耗品経費（砕石）、学生用実験機器購入費（電子天秤）

（2）寄附物品等の受け入れについて

R4年度に青森銀行様、ハシモトホーム様より、本校本コースへ40万円分の寄贈図書費を受けられることになった。本校は建築関係図書が少ないことから、建築書を選定し図書館に配置する予定とした。また、宮城建設様より、レベル・三脚2セットの寄贈があった。

（3）本コースの将来構想（R2年度入学生以降）専攻科建築学分野への対応について

専攻科建築学分野への対応について検討した。R4年度、助教で建築系教員を募集することが可能になり、1月に1名教員の採用を内定し、R5年4月1日より着任した。また、Zコース専攻科改組について、今後も検討していく事とした。

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	教育研究支援センター
行動計画	1. 研究・教育活動に関する技術支援（継続） 2. 東北地区高専および他機関との連携の推進（継続）

1. 研究・教育活動に関する技術支援

各学科およびコースからの業務依頼に対して各担当技術職員がそれぞれ支援するとともに対応した。特に自主探究学習に対する技術支援と支援セミナーとして3Dプリンタおよびレーザー加工機についてのセミナーを実施した。また、本校公開講座「メカn o ワールド体験塾」、「第二種電気工事士技能試験事前講習会」、「化学の学校」等のイベントの技術支援を行った。

2. 東北地区高専および他機関との連携の推進

第24回東北地区国立高等専門学校技術職員研修への参加

この研修会は東北地区の国立高等専門学校に勤務する技術職員の資質向上を目的として、東北地区6高専が持ち回りで毎年開催している。令和4年度は八戸高専を主管校として、8月31日(水)、Microsoft Teams による遠隔研修として開催された。研修は八戸高専教員による基調講演、技術課題発表などが実施された。本校からは9名の技術職員が参加し1件口頭発表をした。また、新型コロナウイルス感染予防対策について各高専の実情など情報を共有した。

—令和4年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	空間構造デザイン系
行動計画	1. 選択科目「空間デザイン」の授業内容検討（継続）

R4年度授業内容およびR5年度授業内容について検討した。

【R4年度授業内容】

私達にとって最もなじみ深い工業製品である自動車は、約250年前に誕生したとされる。当初の自動車の姿は車体にエンジンを積みながら、外見は馬車の姿をしていた。自動車という製品は250年という長い時間をかけて進化をとげ、今私達が知る自動車という様式をまとうようになった。そう考えると、世のなかに存在する工業製品の多くは、技術の進化とともに最新の様式に確立されていくものである。

建築の歴史を見ると、ある時代のある場所（地域）にみられる建築・構造物は、その時代や場所固有の様式 style を有し、それはその時代において産み出された先端の建設技術を根拠に成立している。

本講義は、構造・建築様式の確立において大きな影響を持つ建設技術を見ながら、建設技術の確立に大きな影響を与える固有条件（気候や材料など）を見ながら、様式と技術の関係を紐解いていく。

- 第1回 橋梁架設 橋梁形式の選定や架設計画におけるヒューマンセンタードデザイン
- 第2回 橋梁架設 橋の重要度や耐久性向上の対策
- 第3回 橋梁架設 アセットマネジメント
- 第4回 建築構造デザイン(地震災害と、耐震性向上の為の形状・デザイン)
- 第5回 建築構造デザイン(風雪災害と、耐風性・耐雪性向上の為の形状・デザイン)
- 第6回 東アジア建築（気候と建築の固有性）
- 第7回 東アジア建築（様式と技術）
- 第8回 まとめ

【R5年度授業内容について】

これまでは環境都市・建築デザインコースの教員、特に建築系教員が担当することが多かったため、R5年度については、新たに「まちづくりに関するデザイン」、「機械・医工学に関するデザイン」および「環境都市に関するデザイン」を柱にコース横断的に実施することになり、今後も内容を検討することになった。

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	ロボティクス系
行動計画	1. 系担当の授業内容等の充実（継続）

1. 系担当の授業内容等の充実

全4年生対象の「ロボティクス」（選択必修科目）の授業を、夏学期学修1単位、15時間として実施した。機械・医工学コース教員1名、電気情報工学コース教員1名の合計2名で担当し、ロボティクス分野の基礎として、マイコンボード（Arduino）を用いたプログラミングによる制御技術を中心に、センサ技術・機械機構学などのロボットの設計・製作および運転に関する総合的な授業を行った。令和4年度は受講者数が想定を超えたため、教務係と協議して教材を5セット追加し、46名に対応を行った。また、授業の改善・高度化のため、（公財）NKS メカトロニクス技術高度化財団の事業を活用して、タブレットから無線でロボットを操作する演習実習を実施し、ITと通信技術について学べるようにした。また、サーボ信号を可視化して理解するテーマを改善し、USBメモリを多数準備してオシロスコープ波形をデジタルでレポート化する取り組みを行った。電気情報工学コース3年の「ロボットエレクトロニクス」は新カリキュラム対応のため夏秋冬学期で取り組む学修単位Bの2単位化を行い、授業過密化の改善を行った。一方、地元企業と連携したはんだ付け教育については、企業側の都合とコロナ禍のため中止となった。

—令和4年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	機能創成材料系
行動計画	1. 機能創成材料系における授業内容等の検討

1. 機能創成材料系における授業内容等の検討

平成30年度より第4学年の選択科目のひとつとして、「機能創成材料」がスタートし、機能創成材料系教員のうち、電気情報工学コース教員1名で2時間授業4回、マテリアル・バイオ工学コース教員2名で2時間授業4回を担当して実施してきたが、今年度は、電気情報工学コース教員1名で2時間授業3回、マテリアル・バイオ工学コース教員2名で2時間授業3回、機械・医工学コース教員1名で2時間授業2回を担当する体制とした。ものづくりに関連した機械材料も授業内容に追加され、より幅広い機能性材料を学ぶことができ、授業内容の充実を図ることができた。

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	エネルギー系
行動計画	1. エネルギー系所属教員の専門性を活かした授業方法の構築（新規）

1. エネルギー系所属教員の専門性を活かした授業方法の構築（新規）

令和4年度の第4学年専門共通科目「エネルギー」では、前年度までの2名ずつ担当する授業担当ローテーション方式から、教員の専門性を活かし教員が面白いと思う内容を学生に伝えることを目的に、所属の全教員が授業を1回ずつ担当するように実施方法を変更した。

各教員のテーマは、M：エネルギー総論、G：SDGsとエネルギー、M：化石燃料に頼らない基盤エネルギー源、Z：海洋に潜む膨大な再生可能エネルギー、Z：将来のエネルギーベストミックス（日本と世界）、E：エネルギーと電力変換技術、M：エネルギーと経済、とそれぞれの専門分野に応じた多岐にわたるものとなった。

評価方法は、試験中心の評価方法からレポート100%の評価方法へ変更し、提出されたレポートから学生は興味を持って真面目に取り組んでくれたようである。

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	ナノテクノロジー系
行動計画	1. ナノテク系開講科目授業内容の充実（継続）

第4学年専門共通科目である「ナノテクノロジー」について、令和4年度は2名の教員によって、機能性材料のナノレベルでの状態分析と顕微鏡法と真空に関する講義を実施した。受講者は、Mコース7名、Eコース13名、Cコース4名の合計24名である。様々な専門コースの学生が受講することに配慮した講義を行うことにより、受講者全員が単位取得できた。次年度は2名の教員が担当し、循環器系のバイオメカニクスと電池材料に関する講義を行う予定である。

—令和4年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	環境・バイオテクノロジー系
行動計画	1. 系担当の授業内容についての検討（継続）

1. 系担当の授業内容についての検討

令和4年度の授業は、各教員7名が各1回を担当するオムニバス方式で実施した。履修者は、M 6名、E 2名、C3 2名、Z2 8名の計68名で、全員が単位取得できた。今後の担当教員のローテーションや授業方法の変更などは引き続き検討することとした。

－令和4年度 行動計画の取組結果報告書－

委員会等名称	数理情報系
行動計画	1. 数理情報の授業内容の検討（継続）

1. 数理情報の授業内容の検討（継続）

令和4年度の「数理情報」では、数学系と物理系のテーマを前年度と異なるそれぞれ2名の教員が担当した。これまでに引き続き、低学年の数学・物理から高学年の応用数学・応用物理へ、さらに、専門科目へつなぎとなることを授業の目的としている。数学系のテーマは、低学年で習う微分積分学を基礎とし、その応用例として微分方程式について発展的な問題を解くことにした。演習形式も取り入れて具体的な問題を解くことにより、微分方程式およびその基礎となる数学の知識を確かなものとし、工学の各分野への応用を目指す内容とした。授業では取り扱うことのない内容にも触れることが出来、編入学試験等などの対策としても効果が期待される。物理系のテーマは、低学年で習う線形代数を基礎とし、その応用例としてマルコフ連鎖の初歩を解説し、Google PageRankへの応用を体験させることにした。計算には、フリーのCASであるMaximaを使用することとし、ダウンロードの仕方から計算方法まで授業の中で指導した。授業に取り組むことにより、現実世界における数学の有用性を感じてもらえたと考える。

令和5年度に向けた授業内容の検討を行い、選択科目開講調およびシラバスを作成した。数学系は令和4年度と同様の担当者により同様のテーマで実施し、物理系は新たな担当者により新たなテーマで実施することになった。新たな物理系のテーマは、本校のカリキュラムにない天文学に関する入門的な内容とし、3回の授業によって、天文学の歴史的な変遷と現代天文学を概観するものとした。

—令和4年度 行動計画の取組結果報告書—

委員会等名称	産業教育系
行動計画	1. 国際感覚を養う・グローバルエンジニアを目的とした授業の計画と実行 2. 新カリキュラムにおける産業教育系の授業内容の検討

1. 国際感覚を養うグローバルエンジニアを目的とした授業の計画と実行

- a. 英語教育における外国人講師による英会話プログラムの導入：グローバル実践英語の一環として本科1年生は英語ネイティブの外国人講師の授業を受け、夏休み期間にWeblioのオンライン英会話を受講した。本科2～3年生にはNative Campによるオンライン英会話プログラムを授業や夏休み等を活用し、積極的に導入した。日本語の通じないネイティブ講師との英会話を体験することにより、低学年から実践的な英語コミュニケーション力の向上へとつなげた。
- b. 国際自主探究：新型コロナウイルス感染拡大防止のため海外派遣は中止となったがその代わりにモンゴルの協定校の学生とTV会議システム、SNS、本校のモンゴル人留学生等をおして国際自主探究におけるデータを収集し、留学生は自国の母校の学生たちと繋がって国際自主探究を遂行した。またポスター発表会ではゲストとして来られた外国人教育関係者に対して英語で積極的に自身の研究を説明していた。
- c. 英語以外の選択科目の授業で（例：医工福祉）日本語と英語の両方で解説や確認テストを行った。
- d. 授業外においても海外の学生とのオンラインによる異文化交流や専門能力や技術力を伴った英語コミュニケーション能力（「KOSEN 英語」）を発展させ、高学年生には英語によるファシリテーター役を育成するファシリテーター養成講座などを行うことでさらなるグローバルエンジニアへの意識向上を図った。

2. 新カリキュラムにおける産業教育系の授業内容の検討

令和5年度から開校する「産業教育」の授業案を作成した。授業の内容としては、現代社会で生じているさまざまな諸現象について、歴史資料を用いて過去を理解しながら、現代社会を分析・考察・議論するものである。現代に通じる問題の歴史的背景には、19世紀後半から20世紀にかけて各地で成立した「国民国家」の形成が大きく関わっている。「国民国家」が形成されたことで、各地域・各領域で、さまざまな包摂と排除が生じた。こうした現象が現代の社会にどのような意義をもたらしたのか。「産業教育」の授業では、新型コロナやロシアのウクライナ侵攻などの時事問題を通して「国民国家」が形成されたことによって生じた包摂と排除について考察する。本講座に際して、人文社会科学の視点から、さまざまな外国語資料やニュース、映像資料などを使用する。これらの資料を分析することで、学生には、英語圏だけでなく、さまざまな地域の言語や、歴史に対する解釈のあり方などを多角的に理解させたい。